

用や薬用となるハトムギが含まれるが、現時点では栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。ただし、ここでは遺跡から検出されていることから、栽培種に由来するものである可能性が高いと考えられる。

5) その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。キビ族にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものが含まれており、ウシクサ族Bの中にはサトウキビ属に近似したものが含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(イ) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

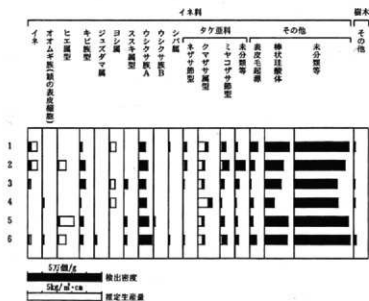
上記以外の分類群では、ウシクサ族A、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出され、ヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型なども部分的に少量検出された。また、樹木（その他）も少量検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。

以上の結果から、当時の調査区周辺はクマザサ属などのササ類やススキ属、チガヤ属などが生育する比較的乾燥した開かれた環境であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が分布していたと推定される。

④まとめ

植物珪酸体分析の結果、As-A直下の94区1号畑からは、イネ、ムギ類（コムギやオオムギ）、ヒエ属（ヒエが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）が検出され、これらの穀類が栽培されていた可能性が認められた。

当時の調査区周辺は、クマザサ属などのササ類やススキ属、チガヤ属などが生育する比較的乾燥した開かれた環境であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が分布していたと推定される。



第206図 石知遺跡94-1号畑の植物珪酸体分析結果

第26表 石畑遺跡における植物珪酸体分析結果
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料	94区1号畑 (As-A直下)					
			1	2	3	4	5	6
イネ科								
	Gramineae (Grasses)							
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)		21	22	6			7
オオムギ族(籾の表皮細胞)	Wheat husk Phytolith					7		7
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type			7			13	7
キビ族型	Panicum type		14	36	38	7	26	22
ジュスダマ属	<i>Coix</i>							14
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)		7		6	7		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type				19		13	14
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		43	58	44	50	65	86
ウシクサ族B	Andropogoneae B type						7	
シバ属	<i>Zoisa</i>		7					7
タケ亜科								
	Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nenusa</i>		21	22	6			7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)		64	43	38	93	39	43
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>		36	65	25	7	26	43
未分類等	Others		14	65	25	7	13	22
その他のイネ科								
	Others							
表皮毛起源	Husk hair origin		50	29	6	21	20	43
棒状珪酸体	Rod-shaped		165	123	108	64	157	151
未分類等	Others		365	339	286	293	360	373
樹木起源								
	Arborcal							
その他	Others		7		6	7		14
植物珪酸体総数	Total		817	808	616	566	739	861

おもな分類群の地定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.63	0.64	0.19			0.21
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		0.61			1.10	0.60
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.45		0.40	0.45		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type			0.24		0.16	0.18
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nenusa</i>	0.10	0.10	0.03			0.03
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.48	0.32	0.29	0.70	0.29	0.32
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.11	0.19	0.08	0.02	0.08	0.13

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>						
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nenusa</i>	15	17	8			7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	70	52	73	97	79	66
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	15	31	19	3	21	27

(7) 尾坂遺跡におけるプラント・オパール分析

①試料

調査地点は、尾坂遺跡、63-1号畑の北東部と北西部、南側平坦部および東壁北端の4地点である。分析試料は、1号畑北東部では南側より畝間、畝上部、畝下部、畝間の4点、1号畑北西部では南側より畝間、畝、畝間、畝、畝間の5点、南側平坦部ではAs-A直下層1点、東壁北端ではAs-A直下畑とその下層の2点の計12点である。

②分析結果

イネ、キビ族(ヒエ属型)、オオムギ族、ヨシ属、ウシクサ族(ススキ属型)、シバ属、タケ亜科(ネザサ節型、クマザサ属型、その他)について定量を行い、その結果を第27表、第207図に示した。

③考察

(ア) イネ科栽培植物の検討

本遺跡の試料からは、イネ、オオムギ族、ヒエ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

1) イネ

イネは、1号畑北東部の畝上部、畝下部、畝間、1号畑北西部の北側畝、東壁北端のAs-A直下畑とその下層から検出された。このうち、1号畑北東部の畝上部では密度が5,200個/gと高い値である。したがって、同遺構では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の試料では密度が600~2,200個/gと比較的低い値である。ただし、これらの遺構は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

2) オオムギ族

オオムギ族（穎の表皮細胞）は、東壁北端のAs-A直下畑から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類（コムギやオオムギ）と見られる形態のものである（杉山・石井, 1989）。密度は700個/gと低い値であるが、穎（籾殻）は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同遺構ではムギ類が栽培されていた可能性が高いと考えられる。

3) ヒエ属型

ヒエ属型は、1号畑北東部の畝上部、畝下部、畝間、1号畑北西部の2箇所の畝と北側の畝間、南側平坦部、東壁北端のAs-A直下畑とその下層から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか, 1988）。ただし、ここでは畑跡から検出されていることから、栽培種に由来するものである可能性が高いと考えられる。密度は600~3,300個/gである。ヒエ属は葉身における植物珪酸体の密度が低いことから、植物体量としては過大に評価する必要がある。以上のことから、これらの遺構ではヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性が考えられる。

(イ) 植生と環境の推定

上記以外の分類群では、全体にネザザ節型とクマザザ属型が多量に検出され、ススキ属型も比較的多く検出された。また、部分的にヨシ属やシバ属も検出された。

これらのことから、当時の調査区周辺は、ネザザ節やクマザザ属などのササ類を主体としてススキ属などもみられるイネ科植生であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。なお、畑土壌からネザザ節型やクマザザ属型が多量に検出されることから、肥料等としてこれらが利用されていたことも想定される。

④まとめ

プラント・オパール分析の結果、浅間A軽石直下の畑遺構の一部からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、部分的にムギ類（コムギやオオムギ）やヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。

(B) 二社平遺跡における植物珪酸体分析

①試料

分析試料は、二社平遺跡、中段トレンチ1の標準土層断面から採取された5点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図（第208図）に示す。

②分析結果

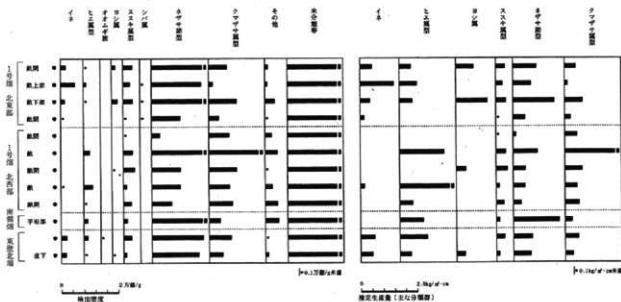
分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第28表および第208図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

第27表 尾板遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		1号塚北東部				1号塚北西部				南側		東塚北端	
分類群 (和名・学名) \ 試料		穀類		穀類		穀類		穀類		平坦部		崖下	
		穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類	穀類
イネ科	Gramineae (Grasses)												
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	20	52	15	6				7			22	18
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	7	10	7		23		33	7	14		15	6
オオムギ族(穎の表皮細胞)	Hordeae											7	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	13		22				7					6
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	33	28	38	6	6	34	41	13	28	14	29	12
シバ属	<i>Zizania</i>			5	7								
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)												
ネザサ節型	<i>Platylabus</i> sect. <i>Nanasu</i> type	215	176	436	111	31	237	122	106	71	417	182	164
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyobasusa</i>) type	65	18	109	37	74	452	108	73	85	41	80	49
その他	Others	13	10	36	6	25	45	7	26	43	48	7	12
未分類等	Unknown	358	363	472	353	173	486	230	251	228	342	654	286
プラント・オパール総数		722	659	1141	526	309	1277	514	509	462	875	996	651

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)		イネ		ヒエ属型		ヨシ属		ススキ属型		ネザサ節型		クマザサ属型	
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.57	1.53	0.43	0.18				0.19			0.64	0.54
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	0.55	0.87	0.61		1.90		2.77	0.60	1.15	1.22	0.51	0.31
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.82		1.38			0.43					0.38	0.58
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.40	0.32	0.45	0.09	0.08	0.42	0.50	0.16	0.35	0.17	0.36	0.15
ネザサ節型	<i>Platylabus</i> sect. <i>Nanasu</i> type	1.03	0.85	2.09	0.53	0.15	1.14	0.58	0.51	0.34	2.00	0.87	0.79
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyobasusa</i>) type	0.49	0.12	0.82	0.29	0.56	3.39	0.81	0.55	0.64	0.31	0.60	0.36

※試料の収比量を1.0と仮定して算出。



第27図 尾板遺跡プラント・オパール分析結果

※主な分類群について算出。

〔イネ科〕

機細胞由来:イネ、ヒエ属型、エノコログサ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)

穎の表皮細胞由来:オオムギ族(ムギ類)

〔イネ科-タケ亜科〕

ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

多角形板状(ブナ科コナラ属など)、その他

③考察

(ア) イネ科栽培植物の検討

本遺跡の試料からはイネ、オオムギ族、ヒエ属型、エノコログサ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

1)イネ

イネは、As-A直下層(試料1)とその下層(試料2)から検出された。密度はいずれも1,000個/g未満と低い値である。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層もしくは他所からの混入の可能性も否定できない。

2)オオムギ族

オオムギ族(穎の表皮細胞)は、As-A直下層(試料1)とその下層(試料2)から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類(コムギやオオムギなど)と見られる形態のもの(杉山・石井,1989)である。密度は1,500~2,100個/gと比較的低い値であるが、穎(初穀)は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺で、ムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

3)ヒエ属型

ヒエ属型は、As-Kk混層(試料3)から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを完全に識別するには至っていない(杉山ほか,1988)。また、密度も1,000個/g未満と低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は低いと考えられる。

4)エノコログサ属型

エノコログサ属型は、As-A直下層(試料1)から検出された。エノコログサ属型には栽培種のアワの他にエノコログサなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを明確に識別するには至っていない(杉山ほか,1988)。また、密度も1,000個/g未満と低い値であることから、ここでアワが栽培されていた可能性は低いと考えられる。

5)その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものが含まれており、ウシクサ族Bの中にはサトウキビ属に近似したものが含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(イ) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、全体的に棒状珪酸体が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A、ネザサ節型、クマザサ属型なども検出された。また、As-Cの上層(試料5)ではブナ科コナラ属などに由来する植物珪酸体も検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。おもな分類群の推定生産量によると、As-Kk混層(試料3)より上位ではヨシ属

が優勢となっていることが分かる。

以上のことから、As-Cの上層からAs-A直下層までの堆積当時は、キビ族やテガヤ属およびクマザサ属などのササ類が生育するイネ科植生が継続されていたと考えられ、As-Cの上層ではコナラ属などの樹木(落葉樹)も見られたと推定される。また、As-Kk混層より上層の堆積当時には、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

④まとめ

植物珪酸体分析の結果、As-A直下層およびその下層からは少量ながらイネやムギ類(コムギやオオムギ)が検出され、調査地点もしくはその近辺でこれらの穀類が栽培されていた可能性が認められた。

浅間C軽石(As-C,4世紀中葉)の上層から浅間A軽石(As-A,1783年直下層)にかけては、ススキ属やテガヤ属、およびクマザサ属などのササ類などが生育する比較的乾燥した開かれた環境であったと考えられ、浅間粕川テフラ(As-Kk,1128年)混層より上層の時期には、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

第28表 二社平遺跡の植物珪酸体分析結果

検出密度(単位:×100個/g)

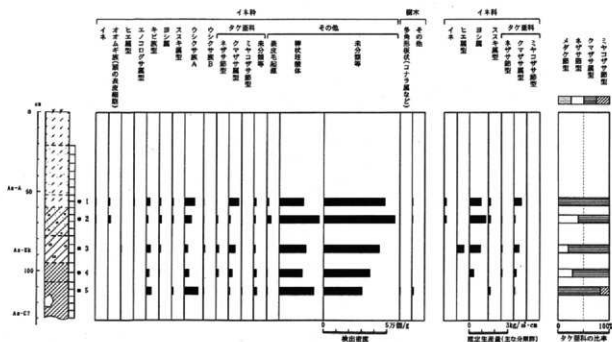
分類群	学名	地点・試料	標準土層断面					
			1	2	3	4	5	
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)		7	7				
オオムギ族(穎の表皮組織)	Wheat husk Phytolith		15	21				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type				7			
エノコログサ属型	<i>Setaria</i> type		7					
キビ族型	Panicaceae type		30	14	36	25	42	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)		15	21	14	6		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		15	14			14	
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		82	55	28	38	111	
ウシクサ族B	Andropogoneae B type		7	7	14		7	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>			14	21	19		
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyukozasa</i>)		82	14	57	32	14	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyukozasa</i>						7	
未分類等	Others		22	14	14	25	28	
その他のイネ科	Others							
表皮毛起源	Husk hair origin		15	34		6	7	
棒状珪酸体	Rod-shaped		194	317	213	185	278	
未分類等	Others		484	564	441	369	306	
樹木起源	Arboreal							
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (<i>Quercus</i>)						7	
その他	Others		7	7			14	
植物珪酸体総数	Total		984	1101	847	707	834	

おもな分類群の推定生産量(単位:kg/nl・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.22	0.20			
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type			0.60		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.94	1.30	0.90	0.40	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.18	0.17			0.17
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		0.07	0.10	0.09	
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyukozasa</i>)	0.61	0.10	0.43	0.24	0.10
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyukozasa</i>					0.02

タケ亜科の比率(%)

ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	39	19	28
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyukozasa</i>)	100	61	81
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyukozasa</i>			72
				83
				17

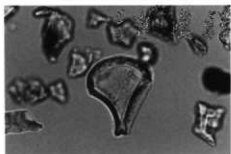


第208図 二社平遺跡標準土層断面の植物柱胞体分析結果

文献

- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究①—数種イネ科栽培植物の柱胞体標本と定量分析法—, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機軸細胞柱胞体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕遺跡のための基礎資料として—, 考古学と自然科学, 20, p.81-92.
- 杉山真二・石井克己 (1989) 群馬県子持村, F P 直下から検出された灰化物の植物柱胞体 (プラント・オパール) 分析, 日本第四紀学会要旨集, 19, p.94-95.
- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機軸細胞柱胞体, 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二 (2000) 植物柱胞体 (プラント・オパール), 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.
- 藤原宏志 (1979) プラント・オパール分析法の基礎的研究③—稲田・板付遺跡 (複口式) 水田および群馬・日高遺跡 (弥生時代) 水田におけるイネ (*O.sativa* L.) 生産量の推定—, 考古学と自然科学, 12:29-41.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究⑤—プラント・オパール分析による水田址の探査—, 考古学と自然科学, 17:73-85.
- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点, 植生史研究, 第2号, p.27-37.

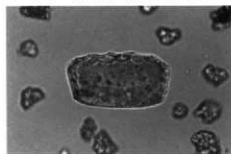
東 宮
下 田



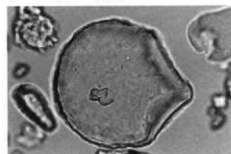
1 イネ 東宮4



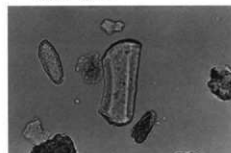
3 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 東宮2



5 ヒエ属型 下田3



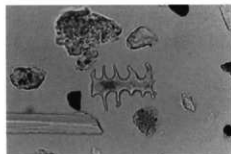
7 ヨシ属 東宮4



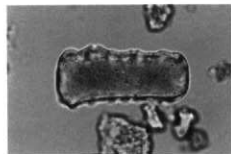
10 イネ科B 東宮2



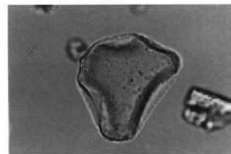
2 イネ 下田1



4 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 東宮1



6 キビ属型 東宮3

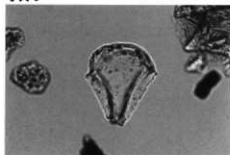


9 ウシクサ族 (大型) 下田1

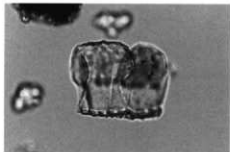


12 表皮毛起源 下田4

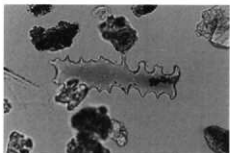
0 50 100 μm



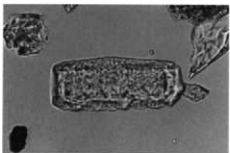
1 イネ 深堀トレンチ7



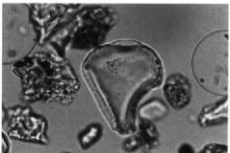
3 イネ (側面) 北地点1



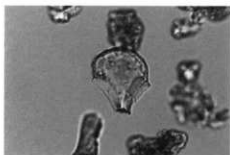
5 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 深堀トレンチ4



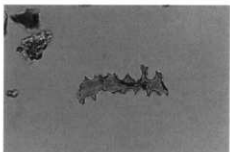
7 キビ属型 深堀トレンチ3



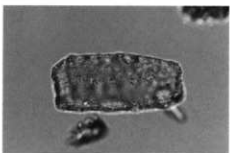
9 ススキ属型 深堀トレンチ5



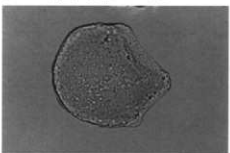
2 イネ 深堀トレンチ6



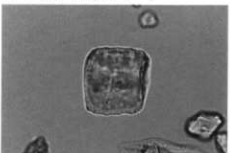
4 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 深堀トレンチ2



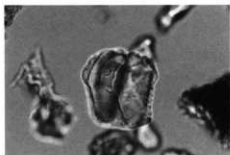
6 ヒエ属型 深堀トレンチ1



8 ヨシ属 深堀トレンチ5



10 ウシクザ族型 深堀トレンチ2

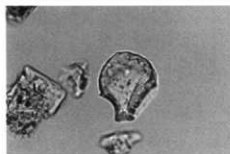


11 ネザサ節型 深堀トレンチ3



12 クマザサ属型 深堀トレンチ5

0 50 100 μm

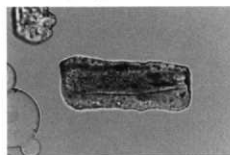


1 イネ64区1号畑3

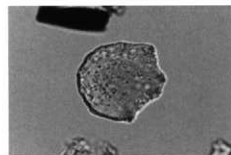
川原湯勝沼



2 イネ(側面)64区1号畑2



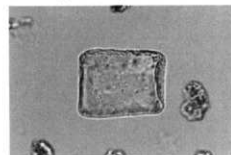
3 キビ属型 64区1号畑2



4 ヨシ属 63区2号畑1

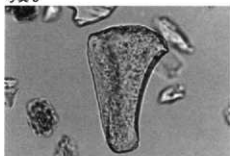


5 ススキ属型 63区2号畑3

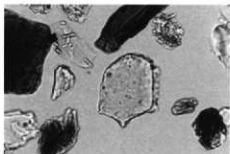


6 ウシクサ属型 63区2号畑2

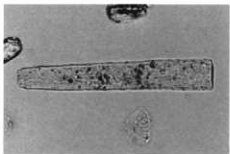
0 50 100 μm



7 イネ科A (くさび型) 63区平坦部分



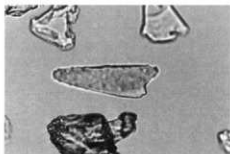
9 クマザサ属型 63区平坦部分1



11 棒状珪酸体 63区2号燧1



8 イネ科 (不明) 63区1号燧1

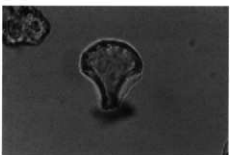


10 表皮毛起源 63区2号燧1



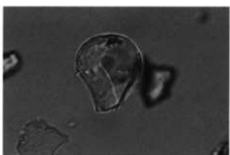
12 多角形板状 (コナラ属など) 63区2号燧2

0 50 100 μm



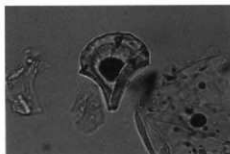
1 イネ1号燧北東部 畝上部

尾 坂

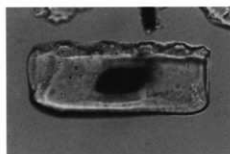


2 イネ1号燧北東部 畝下部

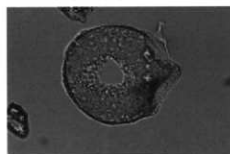
0 100 μm



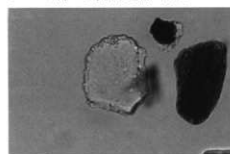
3 イネ 東壁北端 矽下層



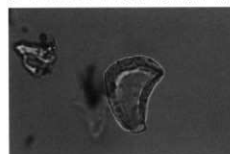
5 キビ族 (ヒエ属型) 1号燧北西部 矽部



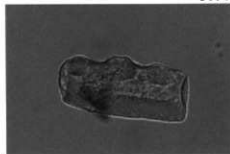
7 ヨシ属 1号円形遺構 南側



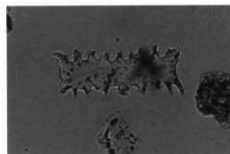
9 タケ亜科 (クマザサ属型) 1号燧北西部 矽部



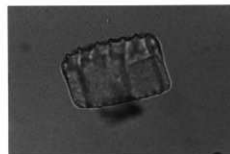
11 ウシクサ族 (ススキ族) 1号燧北西部 矽部



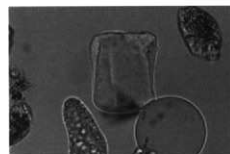
4 キビ族 (ヒエ属型) 1号燧北東部 矽下部



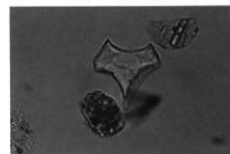
6 オオムギ族 東壁北端 燧



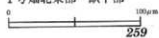
8 タケ亜科 (ネザサ節型) 1号燧北東部 矽上部



10 ウシクサ族 (ススキ族) 1号燧北東部 矽上部

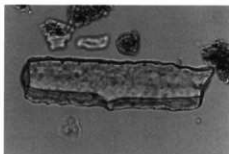


12 シバ族 1号燧北東部 矽下部

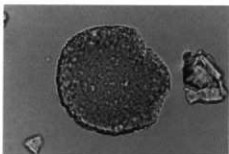




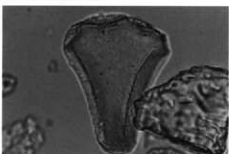
1 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 2



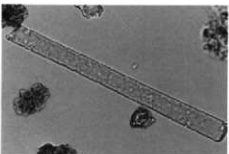
3 ヒエ属型5



5 ヨシ属2

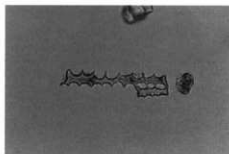


7 ウシクザ族B2

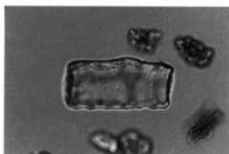


9 棒状珣酸体4

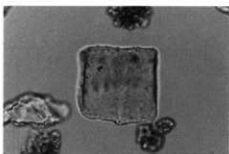
二社平



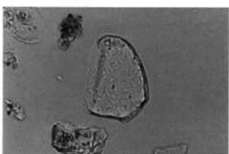
2 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 2



4 キビ属型5

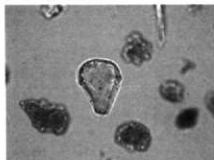
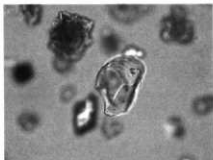
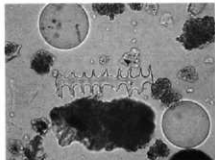
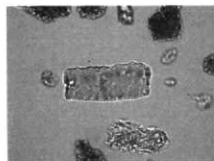
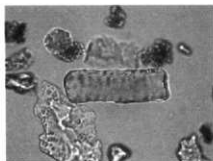
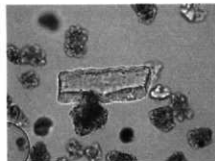
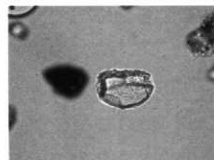
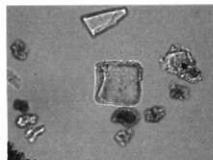
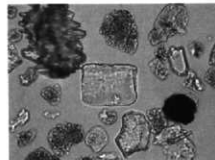
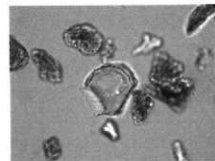
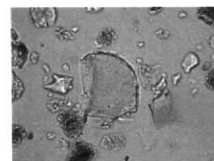
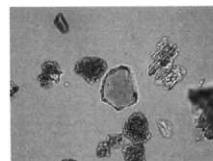
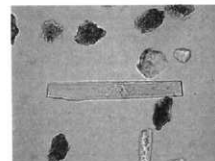


6 ススキ属型4



8 クマザサ属型5

0 50 100 μm

イネ
試料 2イネ
試料 2オオムギ族 (穎の表皮細胞)
試料 4ヒエ属型
試料 2ヒエ属型
試料 5キビ族型
試料 6ジュズダマ属
試料 6ススキ属型
試料 3ウシクサ族 A
試料 1ウシクサ族 B
試料 5シバ属
試料 1ネザサ節型
試料 6クマザサ属型
試料 4ミヤコザサ節型
試料 1棒状珪酸体
試料 5

第3節 花粉分析

株式会社 古環境研究所

(1) はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

ここでは、植生や環境の推定および畑作物の検討を主目的として花粉分析を行った。また、尾坂遺跡については、寄生虫卵の観察を行い人糞施肥などの検討を加えた。

(2) 試料

分析試料は、東宮遺跡、川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の3遺跡から採取された計22点である。

(3) 分析方法

花粉粒の分離抽出は、中村(1973)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

(4) 東宮遺跡①における花粉分析

①試料

試料は、As-A直下の畑跡から採取された1点である。

②結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉10、草本花粉13、シダ植物胞子2形態の計25である。分析結果を第29表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。

[樹木花粉]

モミ属、マツ属複雑管東亜属、スギ、クマシデ属-アサダ、クリ-シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、カエデ属、トチノキ

[草本花粉]

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミスアオイ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ

科、セリ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 出現状況

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではタデ属、イネ属型を含むイネ科の出現率が高く、タンポポ亜科、ミズアオイ属、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科の出現率がやや高い。栽培植物のソバ属の出現率は、虫媒花であることを考慮すると高率といえる。樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属の出現率が高く、コナラ属コナラ亜属、スギ、クリ-シイ属が伴われる。花粉は各分類群とも分解を受けて傷んでいる。なお、寄生虫卵は検出されなかった。

③花粉分析から推定される植生と環境

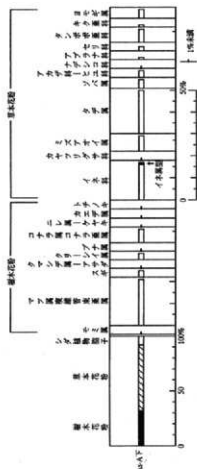
草本花粉には環境の異なる2つの植物群が混在している。多く出現するタデ属、タンポポ亜科、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科は、畑地などの乾燥した環境に生育する人里植物であり、ミズアオイ属は水田雑草でもある水湿地植物である。前者は、栽培植物のソバ属が出現することから畑地を示唆し、後者はイネ属型を含むイネ科が出現することから水田を示唆する。

このことから、調査地点およびその周囲に畑地と水田が近接して存在していたことや、畑地と水田が輪換されていた可能性が考えられる。畑地では集約性の高いソバの栽培が行われていたと考えられる。

周辺地域の森林植生は、ニヨウマツ類(マツ属複雑管束亜属)の二次林が成立し、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)、スギ、クリ-シイ属などの樹木が少し混在していたと推定される。

第29表 東宮遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	Ab-A ₁ 下	畑地
Absced pollen			
<i>Abies</i>	樹木花粉		
<i>Pinus subgen. Diplospina</i>	マツ属複雑管束亜属	37	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	6	
<i>Carpinus Cistrea japonica</i>	カマシラ属/ナツグ	1	
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	5	
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	10	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤク	1	
<i>Acer</i>	カエデ属	1	
<i>Asacanthus barbatus</i>	トナリノキ	1	
Nonabsced pollen			
草本花粉			
Gramineae	イネ科	28	
<i>Oryza type</i>	イネ属型	1	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	1	
Moraceae	ミズアオイ属	12	
<i>Polygonum</i>	タデ属	35	
<i>Polygonum</i>	ソバ属	7	
<i>Chenopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アカザ科-ヒユ科	6	
Caryophyllaceae	ナゲシ科	1	
Cruciferae	アブラナ科	2	
Umbelliferae	セリ科	3	
Lactoniferae	タンポポ科	10	
Asteraceae	キク亜科	2	
<i>Achillea</i>	ヨモギ属	7	
Fern spores			
Monoletate type spore	単条溝胞子	3	
Triolate type spore	三条溝胞子	13	
Absced pollen			
<i>Abies</i>	樹木花粉	64	
Nonabsced pollen	草本花粉	115	
Total pollen	花粉総数	179	
Unknown pollen	未明定花粉	4	
Fern spores	シダ植物胞子	16	
Helminth eggs	寄生虫卵	-	



第29図 東宮遺跡花粉組成成分

(5) 東宮遺跡②(深堀トレンチ)における花粉分析

①試料

試料は、深堀トレンチで採取された9点である。試料最終箇所を分析結果の柱状図に示す。

②結果

1) 分類

出現した分類群は、樹木花粉21、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉14、シダ植物胞子2形態の計40である。分析結果を第30表に示し、花粉数が100以上検出された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。

[樹木花粉]

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属、樺属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシダ属-アサダ、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属-アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エニキ属-ムクノキ、サンショウ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ニワトコ属-ガマズミ属

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、バラ科、ウコギ科

[草本花粉]

イネ科、イネ属型、カタツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナダシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ワレモコウ属、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条胞子

③花粉群集の特徴

花粉の比較的多かった試料1、2、3、7の花粉群集の特徴より、下位よりI帯、II帯の2つの花粉帯が設定された。花粉数の少ない試料においては優占する分類群の特徴を考慮した。

I帯(試料5-7)は、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、イネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属が優占する。樹木花粉ではクリーシイ属の出現率がやや高い。

II帯(試料1-3)は、樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高く、シダ植物胞子の比率も比較的高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占し、タンポポ亜科、ヨモギ属が伴われる。また、畑作の栽培植物であるソバ属が出現する。樹木花粉ではマツ属樺属が優占するが上位に向かってやや減少し、クリーシイ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属がやや増加する。なお、試料8ではトチノキがまとめて検出され、試料1、2、3からは回虫、試料7からは鞭虫の寄生虫卵が検出された。

④推定される植生と環境

浅間C軽石(As-C、4世紀中葉)混層およびその上層の堆積当時は、タンポポ亜属、ヨモギ属、イネ科などの草本が優勢な植生が広がっていたと考えられ、周辺にはクリーシイ属などの広葉樹林が分布していたものと推定される。

浅間Bテフラ(As-B、1108年)直下層から浅間A軽石(As-A、1783年)直下層にかけては、水田をはじめソバなどの栽培が行われていたものと推定される。森林植生としては、マツ林などの二次林が分布していたものと考えられる。なお、これらの層からは寄生虫卵が検出され、人糞施肥が行われていた可能性が認められた。

第30表 東宮遺跡深堀トレンチ花粉分析結果

学名	分類群	和名	深堀トレンチ											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9			
Arboreal pollen		樹木花粉												
<i>Abies</i>		モミ属	1	2										
<i>Picea</i>		トウヒ属	1											
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	2	1									
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属榎榎管束連属	16	38	36		3							
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1	6	4									
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1											
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1									1		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	7	1	1							1	1	
<i>Betula</i>		カバノキ属	3											
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	2	2										
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	9	11	3	1	6	3	20	1				
<i>Fagus</i>		ブナ属	1											
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	10	15	2				2	3	1			
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	1								1			
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	1										1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	1	3										
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	1											
<i>Acer</i>		カエデ属		1										
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ								1	1		6	
<i>Tilia</i>		シナノキ属	2											
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属	1	1										
Arboreal · Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	3	6	2		2	1	5	1				
Rosaceae		バラ科	1											
Araliaceae		ウコギ科	1	1										
Nonarboreal pollen		草本花粉												
Gramineae		イネ科	37	67	44	2	7	26	40	4				
<i>Oryza type</i>		イネ属型	1	2										
Cyperaceae		カヤツリグサ科	4	9	4		1	2	2	4				
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1	1										
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	2	3			3	3	2					
Caryophyllaceae		ナデシコ科	1	1										
<i>Ranunculus</i>		キンポウゲ属									1			
Cruciferae		アブラナ科		1				1	3					
<i>Sanguisorba</i>		ワレモコウ属	1											
Apiodeae		セリ亜科		2	2						1			
Lactucoideae		タンポポ亜科	4	15	11	18	33	33	58	1				
Asteroidae		キク亜科	7	4	2	1			6	3				
<i>Xanthium</i>		オナモミ属					1							
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	17	11	7	4	17	18	54	6				
Fern spore		シダ植物胞子												
Monolete type spore		単条溝胞子	19	24	8	17	24	29	41	39				
Trilete type spore		三条溝胞子	16	17	11	3	5	21	10	2				
Arboreal pollen		樹木花粉	58	85	47	1	9	6	27	10	0			
Arboreal · Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	5	7	2	0	2	1	5	1	0			
Nonarboreal pollen		草本花粉	68	119	72	26	64	85	164	18	0			
Total pollen		花粉総数	131	211	121	27	75	92	196	29	0			
Unknown pollen		未同定花粉	5	3	0	0	0	0	2	0	0			
Fern spore		シダ植物胞子	35	41	19	20	29	50	51	41	0			
Helminth eggs		寄生虫卵												
<i>Ascaris</i>		回虫卵	1	2	4									
<i>Trichuris</i>		鞭虫卵									1			
Total		計	1	2	4				1					

(6) 川原湯勝沼遺跡における花粉分析

①試料

試料は、浅間天明泥流堆積物直下の64-1号畑、63区平坦部、63-1号畑、63-2号畑から採取された計9点である。

②結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉12、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉13、シダ植物胞子2形態の計30である。これらの学名と和名および粒数を第31表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキ、ニワトコ属-ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、スマレ属、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 出現状況

各試料とも少量の花粉しか検出されなかった。樹木花粉では、64-1号畑（試料1、2）、63-1号畑（試料2）で、マツ属複雑管束亜属がやや多い。草本花粉では64-1号畑（試料1、2）、63区平坦部、63-1号畑（試料1、2）、63-2号畑（試料3）で、イネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属がやや多い。栽培植物としては、63区平坦部、63-1号畑（試料2）、63-2号畑（試料1）から、ソバ属が検出された。

③花粉分析から推定される植生と環境

以上のように、浅間天明泥流堆積物直下の畑跡からはソバ属の花粉が検出され、同遺構でソバが栽培されていた可能性が認められた。当時の調査区周辺は、イネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属などの草本が生育する陽当たりの良い環境であったと考えられ、周囲の森林ではニヨウマツ類（マツ属複雑管束亜属）などの二次林化が進んでいたものと推定される。

(7) 尾坂遺跡における花粉分析

①試料

調査地点は、調査区北側にある63-1号畑の東側と西側、同畑円形遺構、調査区南東部石垣状遺構の南東部平坦地である。分析試料は、63-1号畑東側では試料1（上部畝）、試料2（下部畝）、試料3（南側畝間）、試料4（北側畝間）、畑西側では試料5（南側畝間）、試料6（畝）、試料7（北側畝間）、試料8（畝）、試料9（北側畝間）、北東部畑内の円形遺構では試料10、試料11、石垣状遺構の南東部平坦地では試料12である。

②結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉21、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉16、シダ植物胞子2形態

第31表 川原湯勝沼遺跡の花粉分析結果

学名	分類群	和名	64-1号畑			63号平坦部 63-1号畑			63-2号畑			
			1	2	3	1	1	2	1	2	3	
Arboreal pollen		樹木花粉										
<i>Abies</i>		モミ属	1									
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属椎管束亜属	3	5	1		2	15	2		1	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1	2			1	1	1		1	
<i>Juglans</i>		クルミ属								1		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1									
<i>Betula</i>		カバノキ属	1								1	
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ・シイ属	1	2		1		1	2			
<i>Fagus</i>		ブナ属									1	
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	1	1	1		2	1				
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属ケヤキ				1	1	1			1	
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ		1								
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属								1		
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科			3							
Leguminosae		マメ科			1							
Araliaceae		ウコギ科						1		2	1	
Nonarboreal pollen		草本花粉										
Gramineae		イネ科	1	13	2	1	2	3	1	2	1	
Cyperaceae		カヤツリグサ科				1						
<i>Polygonum sect.</i>		タデ属						1				
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属				1		3	1			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科		1								
Caryophyllaceae		ナデシコ科		1			1			1		
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属	1					1				
Cruciferae		アブラナ科						1			1	
<i>Viola</i>		スミレ属								1		
Apiodeae		セリ亜科			1							
Lactucoideae		タンポポ亜科			7	5	8	2	5	1	1	4
Asteroidae		キク亜科	1		1						1	
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	2	3		4	2	3	2	4	7	
Fern spore		シダ植物胞子										
Monolete type spore		単条溝胞子	2	3	4	7	13	10	6	1	2	
Trilete type spore		三条溝胞子	1		1	1	1	1			2	
Arboreal pollen		樹木花粉	9	11	2	2	6	19	7	2	3	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	0	4	0	0	0	1	0	2	1	
Nonarboreal pollen		草本花粉	5	25	9	15	7	17	7	8	13	
Total pollen		花粉総数	14	40	11	17	13	37	14	12	17	
Unknown pollen		未同定花粉	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
Fern spore		シダ植物胞子	3	3	5	8	14	11	6	1	4	
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

の計42である。分析結果を第32・33表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、キハダ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナダシコ科、キンボウグ属、アブラナ科、アリノトウグサ属-フサモ属、セリ亜科、オオバコ属、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 出現状況

ア) 63-1号畑跡東側

試料2、3からは比較的多くの花粉が検出された。試料1は花粉が検出されず、試料4はやや花粉が少なかった。草本花粉の占める割合が高く、イネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属が優占し、キク亜科、カヤツリグサ科が伴われる。試料2、4からは栽培植物のソバ属が検出される。樹木花粉はマツ属複雑管束亜属、クリの出現率がやや高い。シダ植物胞子の割合もやや高い。

イ) 63-1号畑跡西側

試料7、8からは比較的多くの花粉が検出された。試料5、6、9はやや花粉が少なかった。草本花粉の占める割合が高いが、畑跡東側より樹木花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科が優占し、タンポポ亜科、ヨモギ属、キク亜科が伴われる。試料7からは栽培植物のソバ属が検出される。樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属、クリの出現率が高く、コナラ属コナラ亜属、トチノキの出現率もやや高い。シダ植物胞子の割合もやや高い。

ウ) 円形遺構

草本花粉の占める割合が高く、イネ科が優占し、タンポポ亜科、ヨモギ属の出現率も高い。試料10からは、栽培植物のソバ属と水湿地植物のミズアオイ属が検出される。樹木花粉はやや低率でマツ属複雑管束亜属、クリなどが出現する。シダ植物胞子の割合もやや高い。

エ) 石垣状遺構の南東部の平坦地

試料11は花粉があまり検出されなかった。マツ属複雑管束亜属、イネ科、タンポポ亜科、シダ植物胞子がやや多い。栽培植物のソバ属が検出される。

③ 寄生虫卵

試料3、10から回虫卵が低密度に検出された。

④ 花粉分析から推定される植生と環境

畑跡東側、畑跡西側、北東部畑内1号円形遺構、石垣状遺構の南東部の平坦地の各試料にイネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属、シダ植物が多く、これらの草本が主に生育していたとみなされる。イネ科やカヤツリグ

サ科は多様な環境に生育する種類は多いが、耕地雑草や人里植物を多く含み、タンポポ亜科、ヨモギ属、キク亜科は乾燥地を好み耕地雑草や人里植物がほとんどである。花粉が検出されなかつたり少ない試料があるが、花粉の集積する水成の堆積物ではなく、乾燥あるいは乾湿を繰り返す堆積環境による分解作用によって、有機質の遺体が分解されたと考えられる。栽培植物としてはソバ属が検出され、ソバが作物として栽培されていたとみなされる。イネ科には雑穀が含まれるが花粉形態上から分類ができず、花粉の多いイネ科は雑穀が栽培されていた可能性もあるが断定できない。他の作物類は花粉が極めて少ない虫媒花植物であり花粉分析には反映されにくく、ソバ以外の作物も栽培されていた可能性が残される。石垣状遺構の南東部の平坦地からもソバ属の花粉が検出され、この地点もソバが栽培されていたと推定される。

樹木花粉は、畑跡東側、北東部畑内1号円形遺構より畑跡西側が多く、畑跡西側のほうが樹木の生育域に近かったとみなされる。畑跡西側の近隣には、マツ（マツ属複雑管束亜属、ニヨウマツ類）、クリ、ナラ（コナラ属コナラ亜属）、トチノキなどが生育していた。ナラ（コナラ属コナラ亜属）は生態上からコナラ、クスギなどの二次林性の樹木と考えられる。マツ、クリ、ナラはいずれも二次林性の樹木であり、近隣の乾燥地に生育していたと考えられる。クリやトチノキは虫媒花植物であるため花粉の散布性が低く、特に近接して生育していたとみなされる。クリは食用となるため、栽培されていた可能性がある。トチノキは過湿地を好み、近隣の流路沿いなどの湿ったところに生育していたと考えられる。

北東部畑内1号円形遺構からは、水湿地植物のミズアオイ属が検出されたが、花粉が極めて少なく散布性の低い虫媒花植物であるため、遺構がミズアオイ属の生育可能なように滞水していたと考えられる。

寄生虫卵（回虫卵）が試料3、10から低密度に検出された。畑の乾燥あるいは乾湿を繰り返す分解の行われる堆積環境であるのに寄生虫卵が検出されたことを考慮すると、人糞施肥が行われていたと考えられる。

⑤まとめ

尾坂遺跡の浅間A軽石層（As-A、1783年）直下の畑跡と石垣状遺構について花粉分析を行った。その結果、耕地雑草であるイネ科、タンポポ亜科、ヨモギ属、キク亜科が主に生育し、比較的乾燥した環境であったと推定される。作物ではソバ属が検出された。1号畑跡西側の近隣には、マツ（マツ属複雑管束亜属、ニヨウマツ類）、クリ、ナラ（コナラ属コナラ亜属）、トチノキなどの樹木が生育し分布していたと推定される。北東部畑内1号円形遺構では水湿地植物のミズアオイ属が検出されることから、滞水していたと考えられる。また、低密度の寄生虫卵（回虫卵）が検出され、人糞施肥が行われていたと考えられる。

文献

- 中村純 (1973) 花粉分析, 古今書院, p.82-110.
 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原, 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
 島倉三郎 (1973) 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, p.60
 中村純 (1980) 日本産花粉の標識, 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, p.91
 中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として, 第四紀研究, 13, p.187-193.
 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉, 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
 中村純ほか (1981) 農耕史の花粉分析学的研究, 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学 昭和56年度次報告書, 文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括班編, p.147-154.
 Peter J., Warnock and Karl J., Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils, Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫, 藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊一, 奈良国立文化財研究所, p.14-15.
 金子清俊・谷口博一 (1987) 蕨形動物・扁形動物, 動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医歯歯出版, p.9-55.

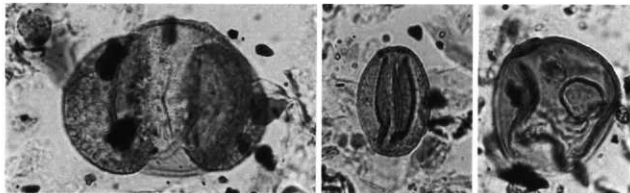
第32表 尾坂遺跡の花粉分析結果 (1)

学名	分類群	和名	畑跡(東側)				畑跡(西側)					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
Arboreal pollen		樹木花粉										
<i>Abies</i>		モミ属						1	2	1		
<i>Tsuga</i>		ツガ属						1		1		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	35	43	26	44	14	37	9	11		
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ			3		2		5	1		
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科			1				3	1		
<i>Juglans</i>		クルミ属			1		1					1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属			3	4	2	1	5	2	1	
<i>Betula</i>		カバノキ属	2	3	3		3	1	2	5		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ		1					2	4	1	
<i>Castanea crenata</i>		クリ	25	25	4	12	18	38	41			
<i>Castanopsis</i>		シイ属	5	5	3		2	3	4	2		
<i>Fagus</i>		ブナ属				1		2	1			
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	5	3	6		7	11	24	8	4	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属			2		2		9	4		
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ウヤキ	1	7	5		5	3	6	4	1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ					1					
<i>Phellodendron</i>		キハダ属								1		
<i>Acer</i>		カエデ属	1	1			1		1			
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ	1	4	1		3	4	5	14		
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	1	3			4	2	3	6		
Leguminosae		マメ科			1					2		
Araliaceae		ウコギ科					1	1	1	1		
Nonarboreal pollen		草本花粉										
Gramineae		イネ科	134	89	33		31	39	89	28	4	
Cyperaceae		カヤツリグサ科	10	7	1			2	18	10		
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節							1			
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1		1				3			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科			2		2		3			
Caryophyllaceae		ナデシコ科										1
<i>Ranunculus</i>		キンボウグ属						1				
Cruciferae		アブラナ科	1						1			
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属	1									
Apiodeae		セリ亜科					1			1		
Valerianaceae		オミナエシ科										1
Lactucoideae		タンポポ科			51	95	45	15	13	35	25	
Asteroidae		キク亜科			6	4	9	6	4	7	11	1
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	39	29	8		14	23	24	29	3	
Fern spore		シダ植物胞子										
Monilate type spore		単条溝胞子			23	21	13	13	13	31	21	1
Trilate type spore		三条溝胞子			55	72	34	12	14	31	32	3
Arboreal pollen		樹木花粉	0	76	101	53	85	61	147	94	18	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	0	1	4	0	5	3	4	9	0	
Nonarboreal pollen		草本花粉	0	243	226	97	69	83	180	104	10	
Total pollen		花粉総数	0	320	331	150	159	147	331	207	28	
Unknown pollen		未同定花粉	0	2	3	4	3	3	7	5	2	
Fern spore		シダ植物胞子	0	78	93	47	25	27	62	53	4	
Helminth eggs		寄生虫卵 (試料1cc中)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
<i>Ascaris</i>		回虫卵			24							
		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

第33表 尾坂遺跡の花粉分析結果(1)

学名	分類群	目 形 違 異		石垣伏遺構
		10	11	南東部平坦地12
Arboreal pollen	樹木花粉			
<i>Abies</i>	モミ属		2	
<i>Tsuga</i>	ツガ属		1	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属榎維管束亜属	34	41	6
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	3	2	
<i>Juglans</i>	クルミ属		1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	3	2	1
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	2	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ		1	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	20	19	
<i>Castanopsis</i>	シイ属	13	9	
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	2	5	2
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1		
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			2
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	1	1	
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	1		
<i>Tilia</i>	シナノキ属	1		1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	3	6	
Leguminosae	マメ科		1	1
Araliaceae	ウコギ科	1		1
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Gramineae	イネ科	166	103	5
Cyperaceae	カヤツリグサ科	14	13	1
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	1		
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	1		1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	4	1	
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属		1	
Apiodeae	セリ属科	1	1	
<i>Plantago</i>	オオバコ属		1	
Valerianaceae	オミナエシ科		1	
Lactucoideae	タンポポ科	65	89	11
Asteroidae	キク科	4	4	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	33	38	2
Fern spore	シダ植物胞子			
Monolate type spore	単条溝胞子	11	28	13
Trilate type spore	三条溝胞子	50	65	4
Arboreal pollen	樹木花粉	80	86	13
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	4	7	2
Nonarboreal pollen	草本花粉	289	252	21
Total pollen	花粉総数	373	345	36
Unknown pollen	未同定花粉	1	3	1
Fern spore	シダ植物胞子	61	93	17
Helminth eggs	寄生虫卵 (試料1cc中)			
<i>Ascaris</i>	回虫卵	10		
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)

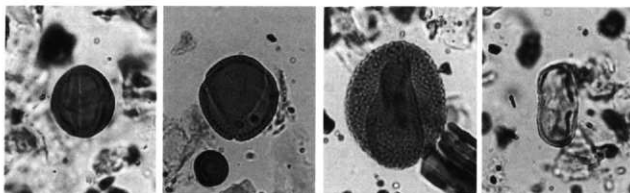
写真9 東宮遺跡の花粉・胞子遺体



1 マツ属複維管束亜属

2 コナラ属コナラ亜属

3 イネ科

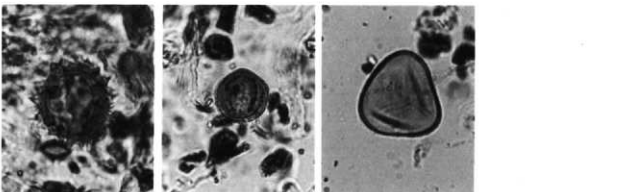


4 タデ属

5 タデ属

6 ソバ属

7 セリ科



8 キク亜科

9 ヨモギ属

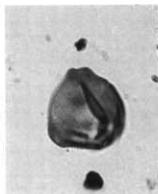
10 シダ植物三条溝胞子

45 μ m

東宮遺跡の花粉・寄生虫卵・胞子遺体



1 マツ属複維管束亜属



2 カバノキ属



3 コナラ属コナラ亜属



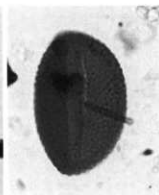
4 イネ科



5 カヤツリグサ科



6 ソバ属



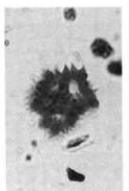
7 ソバ属



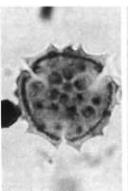
8 アサリ科-ヒユ科



9 ナadeshiko科



10 タンポポ科



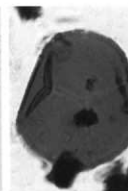
11 キク亜科



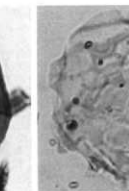
12 ヨモギ属



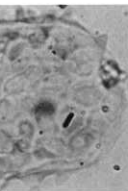
13 シダ植物単条溝胞子



14 シダ植物三条溝胞子



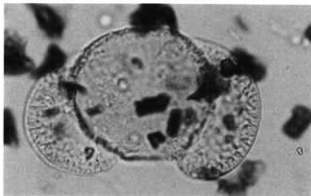
15 回虫卵



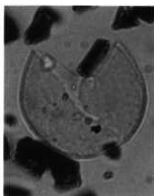
16 鞭虫卵

45μm

写真11 川原湯勝沼遺跡の花粉・孢子遺体



1 マツ属複雑管束重属



2 スギ



3 クリーシイ属



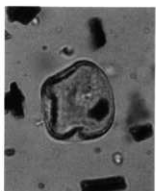
4 コナラ属コナラ亜属



5 クワ科-イラクサ科



6 イネ科



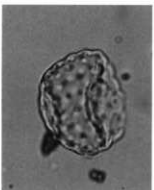
7 カヤツリグサ科



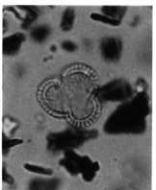
8 ソバ属



9 ソバ属



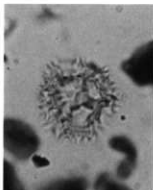
10 アカザ科-ヒユ科



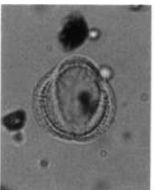
11 アブラナ科



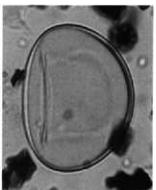
12 セリ亜科



13 タンポポ科

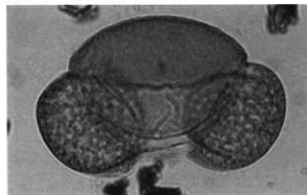


14 ヨモギ属

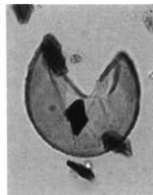


15 シダ植物単条溝孢子

尾坂遺跡の花粉・胞子・寄生虫卵



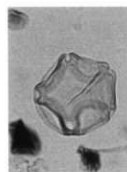
1 マツ属複維管束亜属



2 スギ



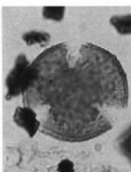
3 クルミ属



4 ハンノキ属



5 シイ属



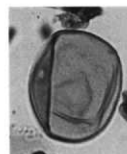
6 コナラ属コナラ亜属



7 トチノキ



8 マメ科



9 イネ科



10 カヤツリグサ科



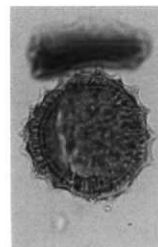
11 ソバ属



12 アプラナ科



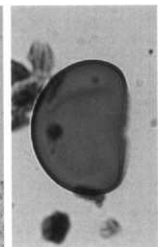
13 タンポポ亜科



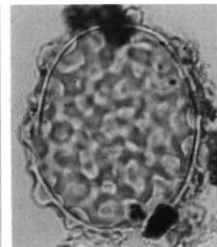
14 キク亜科



15 ヨモギ属



16 シダ植物単条溝胞子



17 回虫卵

第4節 種実同定

(1) 東宮遺跡の種実同定

株式会社 古環境研究所

①試料

試料は、東宮遺跡のAs-A直下畑遺構（試料No5）の計1点である。

②方法

試料（堆積物）500ccを0.25mmの篩を用いて水洗選別を行い、その残渣を双眼実体顕微鏡で観察した。必要に応じて落射顕微鏡観察も行った。同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属の階級で示した。

③結果

樹木1、草本8の計9分類群が同定された。学名、和名および粒数を第34表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

[樹木]

a.クワ属 *Morus* 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。長さ2.2mm、幅1.5mm。

[草本]

b.エノコログサ属 *Setaria* 穎 イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。長さ1.8mm、幅1.1mm。

c.イヌビエ属 *Echinochola* 穎 イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。長さ2.2~2.5mm、幅1.2~1.5mm。落射顕微鏡下では内穎の長細胞の側壁が深く切れ込み、側枝が長い。

d.イネ科 *Gramineae* 穎

茶褐色で楕円形を呈す。長さ1.2mm、幅0.7mm。

e.カヤツリグサ属 *Cyperus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で狭倒卵形を呈す。表面はやや粗い。断面は三角形である。長さ1.4~1.6mm、幅0.6~0.7mm。

f.カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実

茶褐色で倒卵形を呈す。表面は粗い。断面は扁平である。長さ2.2mm、幅1.4mm。

g.タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒色で卵形を呈し、基部に突起を持つ。表面には網目模様がある。断面は両凸レンズ形である。長さ1.8~1.9mm、幅1.4~1.5mm。

h.ヒユ属 *Amaranthus* 種子 ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込みヘソがある。断面は両凸レンズ形である。径1.2mm。

i.ナデシコ科 *Caryophyllaceae* 種子

黒色で円形を呈し、一端がくびれてヘソがある。表面には小突起が密に分布する。径0.8~1.0mm。

④種実同定から推定される植生と農耕

分析の結果、少量ながらクワ属、エノコログサ属、イヌビエ属、イネ科、カヤツリグサ属、タデ属、ヒユ属、ナデシコ科が検出された。草本のイヌビエ属、カヤツリグサ属、タデ属、ヒユ属、ナデシコ科等はいず

れも人里植物であり、畑地ないし水田の雑草の性格をもつ。ヒユ属、ナデシコ科は特に乾燥地を好む。

これらのことから、調査地点およびその周囲は自然度の極めて低い人為的環境が広がり、畑地や水田が営まれていたと推定される。クワ属は集落周辺に多い二次的な樹木であり、栽培されていた可能性が考えられる。

文献

笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 美賢堂, p.494

松谷曉子 (1988) 電子顕微鏡でみる縄文時代の栽培植物, 縄文文化の誕生, 日本放送出版協会, p.91-120.

第34表 東宮遺跡の種実同定結果

学名	分類群	和名	(500cc中) 部位	As-A下
				No.5
arbor		樹木		
<i>Morus</i>		クワ属	種子	1
herb		草本		
<i>Setaria</i>		エノコログサ属	穎	1
<i>Echinochola</i>		イヌビエ属	穎	4
Gramineae		イネ科	穎	1
<i>Cyperus</i>		カヤツリグサ属	果実	4
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実	1
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実	2
<i>Amaranthus</i>		ヒユ属	種子	2
Caryophyllaceae		ナデシコ科	種子	4
Total		合計		20

東宮遺跡出土種実

写真13



1 クワ属種子 0.4mm



2 エノコログサ属穎 0.4mm



3 イヌビエ属穎 0.4mm



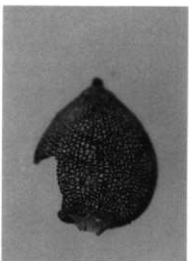
4 イソビエ属穎 ———0.4mm



5 カヤツリグサ属果実 ———0.2mm



6 タデ属果実 ———0.4mm



7 タデ属果実 ———0.4mm



8 ヒユ属種子 ———0.2mm



9 ナアシコ科種子 ———0.2mm

(2) 西久保 I・横壁勝沼遺跡から出土した炭化種実の同定

新山 雅広 (パレオ・ラボ)

①試料

炭化種実の検討は、西久保 I 遺跡4試料、横壁勝沼遺跡1試料の合計5試料について行った。西久保 I 遺跡の4試料は、タッパーに多量の炭化物(大半が細かな炭化材)が入っており、その中から炭化種実を拾い上げた。

②出土した炭化種実

出土した炭化種実の一覧を第35表に示した。以下に、試料ごとに詳細を記載する。

2号住炉内：オニグルミの炭化核破片(径3~6mm程度)が5点とミズキの炭化核破片が1点出土した。トチノキの炭化種子かと思われるものも少し含まれていたが、小破片で状態も悪いため、同定には至らなかった。

3号住床直上：トチノキの炭化種子かと思われるものが少し含まれていたが、小破片で状態も悪いため、同定には至らなかった。

V-3G剥片廃棄場：オニグルミの炭化核破片(径3~16mm程度)が438点とミズキの炭化核破片が1点出土した。

オニグルミの炭化核破片は、完形に換算すると、およそ8~9個分に相当すると思われる。

V-4G剥片廃棄場#7A#2：オニグルミの炭化核破片(径4~11mm程度)が49点出土した。完形に換算すると、1個分程度と思われる。

横壁野沼遺跡・6-1号土坑内：オニグルミの核(未炭化)が1個である。縫合線に沿って自然に半分になったものが2個含まれていたが、同一個体が割れたものである。

第35表 炭化種実一覧表

分類部	部位	西久保I遺跡				横壁野沼遺跡
		2号住炉内	3号住床直上	V-3G 剥片廃棄場	V-4G 剥片廃棄場 サンプル2	6-1号 土坑内
オニグルミ	核半分					2
	炭化核破片	5		438	49	
ミズキ	炭化核破片	1		1		

③考察

出土したのは、オニグルミ核とミズキ核であった。オニグルミは、核の内部に脂肪分の多い子葉があり、食用とされる。出土した核は、炭化した細かな破片ばかりであり、利用後の残骸であろう。ミズキは果実が生食可能な漿果であるが、核が炭化しており、利用法と何か関連があるのかもしれない。横壁野沼遺跡から出土したオニグルミの核は、未炭化で縫合線に沿って半分に割れたものが2個であり、打撃痕(利用痕)は認められない。この2個は、同一個体であり、元は完形の状態であったと思われる。オニグルミ核1個分しか出土していないので、何とも言えないが、もしかしたら、土坑内に貯蔵されていたのかもしれない。

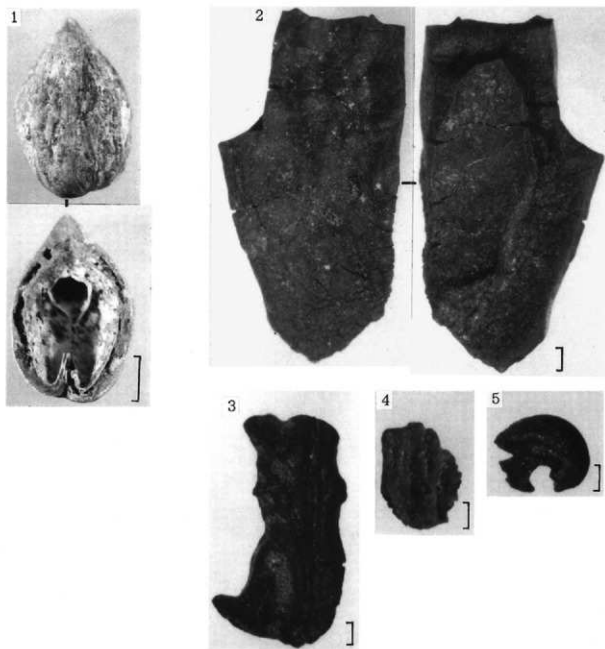
④形態記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核、炭化核

核は灰褐色ないし茶褐色、完形であれば側面観は卵形で先端は鋭頭。表面には縦に不規則な筋があり明瞭な1本の縫合線が縦に走る。炭化して細かく割れた破片は、表面には筋が入り、表面は著しい起伏があることが多い。核壁は緻密で硬く、割れ口にはしばしば光沢がみられる。割れ口の断面は、空隙がみられることが多い。ミズキ *Cornus controversa* Hemsley 炭化核

核は完形であれば、偏円形で基部に大きな臍があり、表面には浅い縦溝がある。2号住炉内出土の破片は、表面の溝の部分であり、V-3G黒曜石集中地域出土の破片は、核の中央部であり、臍の部分が残っている。

写真15



図版1 出土した大型植物化石 (スケールは1が1cm、2～5が1mm)

1. オングルミ、核、横壁勝沼遺跡 (1号土坑) 2. オングルミ、炭化核破片、西久保I遺跡 (V-3G黒曜石集中地域炭化物) 3. オングルミ、炭化核破片、西久保I遺跡 (V-4G水洗いサンプル2炭化物) 4. ミズキ、炭化核破片、西久保I遺跡 (2号住炉内炭化物) 5. ミズキ、炭化核破片、西久保I遺跡 (V-3G黒曜石集中地域炭化物)

第5節 樹種同定

(1) 尾坂遺跡出土木材の樹種同定結果

松葉 礼子 (パレオ・ラボ)

① 試料と方法

同定した試料は合計3点である。同定には、木製品から直接片刃剃刀を用いて、木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片はガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定はこれらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本と比較して行った。主要な分類群を代表する標本については写真図版に示し、同定根拠は後述する。なお、同定に用いられた標本はプレバート番号を付し財団法人群馬県歴史文化財調査事業団に保管されている。

② 同定根拠

アカマツ *Pinus Densiflora Pinaceae* 写真図版1a,1c:4号.... No.2

軸方向・放射方向両細胞間道を共に持つ針葉樹材。細胞間道の周囲にはエビセリウム細胞がある。早材から晩材への移行はやや急で、成長輪界は明瞭である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管と放射細胞間道からなり、単列と紡錘形がある。放射仮道管は放射組織の上下端に位置し、その放射方向壁には鋭角な鋸歯状の肥厚が著しい。分野壁孔は大型の窓状で、1分野に1.2個ある。マツ属複雑維管束亜属と同定したものは、木材組織の保存状態が悪くアカマツ、クロマツの区別がつかなかった試料である。

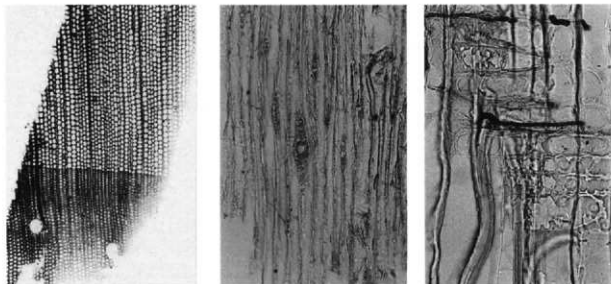
③ 結果

同定した結果アカマツとマツ属複雑維管束亜属であることが分かった (第36表)。

第36表 尾坂遺跡同定対象試料と結果

遺跡名	遺構名	遺物番号	樹種
尾坂遺跡	4号トレンチ	NO.1	アカマツ
尾坂遺跡	4号トレンチ	NO.2	アカマツ
尾坂遺跡	4号トレンチ	NO.3	マツ属複雑維管束亜属

写真16 尾坂遺跡出土木材組織顕微鏡写真



1 a アカマツ bar.1mm 4号トレンチNo2

1 b 同 bar.0.4mm

1 c 同 bar.0.1mm

第6節 放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

(1) 東宮遺跡

①試料と方法

試料名	種類前	処理・調整	測定法
No.1	腐食質土壌	酸洗浄・低濃度処理・ベンゼン合成	β 線法

②測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No (Beta-)
No 1	1840 \pm 60	-22.7	1880 \pm 60	交点: AD130 1 σ : AD75~255	109386

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は、標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68%確率)・2 σ (95%確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

5) 測定No

測定は、Beta Analytic Inc.(Florida, U.S.A)において行われた。Beta-は同社の測定Noを意味する。

文献

Stuiver, M., et al., (1998). INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40(3).

(2) 花畑遺跡

①試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	100区基本土層 SPA, 2層(1)	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 2	100区基本土層 SPA, 2層(2)	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 3	100区基本土層 SPA, 3層	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 4	100区23号土坑 中位	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 5	100区23号土坑 下位	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 6	100区33号土坑 中位(1)	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 7	100区33号土坑 中位(2)	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 8	100区33号土坑 下位	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法
No 9	100区14号土坑	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	加速器質量分析 (AMS) 法

②測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	測定No (Beta-)
No 1	3790±60	-24.7	3790±60	交点: cal BC 2205 1 σ : cal BC 2300 ~ 2135 2 σ : cal BC 2445 ~ 2030	144528
No 2	3900±60	-24.7	3900±60	交点: cal BC 2430 1 σ : cal BC 2470 ~ 2295 2 σ : cal BC 2560 ~ 2525, cal BC 2495 ~ 2200	144529
No 3	3890±30	-25.0	3890±30	交点: cal BC 2395, BC 2375, cal BC 2355 1 σ : cal BC 2455 ~ 2310 2 σ : cal BC 2465 ~ 2285	144530
No 4	1640±30	-26.3	1620±30	交点: cal AD 425 1 σ : cal AD 410 ~ 440 2 σ : cal AD 390 ~ 530	144531
No 5	1650±50	-25.6	1640±50	交点: cal AD 415 1 σ : cal AD 385 ~ 440 2 σ : cal AD 265 ~ 290, cal AD 325 ~ 540	144532
No 6	1930±40	-25.1	1930±40	交点: cal AD 75 1 σ : cal AD 45 ~ 115 2 σ : cal BC 5 ~ cal AD 140	144533
No 7	1530±40	-25.0	1530±40	交点: cal AD 545 1 σ : cal AD 465 ~ 480, cal AD 520 ~ 585 2 σ : cal AD 430 ~ 625	144535
No 8	1950±40	-25.8	1930±40	交点: cal AD 75 1 σ : cal AD 45 ~ 115 2 σ : cal BC 5 ~ cal AD 140	144534
No 9	1540±30	-25.6	1530±30	交点: cal AD 540 1 σ : cal AD 530 ~ 570 2 σ : cal BC 440 ~ 610	157526

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は、標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ (68%確率)・ 2σ (95%確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。

5) 測定No

測定は、Beta Analytic Inc.(Florida, U.S.A)において行われた。Beta-は同社の測定Noを意味する。

文献

Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40(3).

第13章 考察

農事「サクイレ」と降灰による川原湯勝沼遺跡の畝断面解釈

—天明三年浅間災害に関する地域史的研究②—

関 俊 明

(1) はじめに

川原湯勝沼遺跡は、天明三年(1783)8月5日(新暦)の浅間山噴火に伴い発生した泥流堆積物におおわれた遺跡である。すでに、「天明三年浅間災害に関する地域史的研究^{①)}」として、一連の八ツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の中で、天明三年の浅間泥流災害下で見つかる畑の畝断面の解釈について、考古学的な検証を試みた。それは、現行農事暦からみた夏の土用におこなわれる培土と、史料火山学の援用による7月27日～29日に降下の軽石をもとにしたクロスチェックであった。本稿ではさらに踏み込んで、史料に残された6月26日の降灰に着目することで、川原湯勝沼遺跡63区2号畑の畝断面の解釈を農事技法の間作と照らし合わせて検証しようとするものである。

天明三年浅間災害に関する研究論文は詳細に数多く存在していて、記述には新暦と旧暦が入り交じっている場合も多い。本稿でも史料による降下期日を扱うことになるが、農事暦を用いる際には現行の新暦との対照が必要となるため、原則的に新暦で統一して記述する。(引用史料中には括弧中に新暦を付記した。)

(2) サクイレ(間作)

1年の間に同一畑に多種類の作物を栽培することを多毛作という。このときに、異種の作物を同時に栽培管理する手法を一般に間作と呼ぶ。

まず、南九州で広くおこなわれてきた、麦-夏大豆-粟の三毛作の例についてみることにする^{②)}。第37表を参照して、農事を追いかけてみると、成育期間の関係から麦の刈り入れ前に、麦と麦の畝の間に夏大豆を播くことが必要となる。また、夏

大豆収穫前に粟を播くことも同様である。このように、宮崎県南西部では前作の畝間に後作を植え込む(播種)することを「引き込み」とか「中入れ」「イレサク」などと呼び、重要な農事の技法とされてきた。生産性を高めるためにおこなわれた工夫であるが、前作の刈り入れと後作播種において、互いの作物の存在により作業には手間仕事が増えることになる。それが故、この地方では「ナカヒキ」と呼ぶ間作に有効な農具が使われてきた。また、表中「豆中返し」とは、麦の切り株を獣で掘って返す作業であり、この作業をしないといつまでも根が腐らざって、粟が播けないという。

県内伊勢崎市^{③)}の例でも、「千駄のコヤシよりも一夜のマキシ(播き匂)」といい、播種のタイミングが作物の出来に大きく影響を与えるといわれた。「サクイレ」に関しても、「エゴノキが花盛りだから、サクイレのシン(匂)」だとか、「エゴの花を踏んで蒔け」といわれたという。

当地、長野原の農事については、第38表を参照する。7月の麦刈りの前、畝には刈り取り前の麦がある状態で、サクに後作の粟・稗の播種をおこなう、または大豆の苗を移植するなどの場合がこれに匹敵する。つまり、麦のサクに発芽した粟・稗や大豆が生育している期間があり、生育する作物が同一畑内で重複することになる。このように、まだ前の作物が収穫される前に次の作物を播種あるいは移植して、栽培期間の調整を行う方法が間作であり、当地でも今日「サクイレ」と呼ぶ。

(3) 長野原町の関連農事

第38表は、地元古老の聞き取りによる、長野原地区における農事暦のうち本稿に関係する部分で

第37表 「えびの市の三毛作」『宮崎県史』を改編

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
麦												
大豆												
粟												

麦: 刈入れ (5月), 豆中返し (7月), 播種 (麦) (11月)
 大豆: 播種 (夏大豆) (4月), 刈入れ (7月)
 粟: 播種 (粟) (7月), 刈入れ (11月)

第38表 「長野原地区を中心とした地域の農事暦」を抜粋改編

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
麦												
粟・稗 黍												
大豆 (早生) (晩生)												

麦: 播種 (10月), 刈入れ (5月), 播種 (11月)
 粟・稗・黍: 麦のサク入れ (6月), 播種 (6月), 刈入れ (7月), 播種 (7月), 刈入れ (8月)
 大豆 (早生): 播種 (5月), 移植 (6月), 刈入れ (7月)
 大豆 (晩生): 播種 (6月), 移植 (7月), 刈入れ (8月)

ある。ここで注目しておくのは、粟・稗が麦の間作として播種されること、大豆が同時期に播種・移植されることである。

(4) 「桑を洗って蚕こくれて」：地元史料の降灰分析

1783年噴火の降下火砕堆積物について、火山学の分野では、3ヶ月の噴火の推移 (Aramaki, 1956) や降下火砕堆積物の全体の分布 (Minakami, 1942) 及び降下軽石を主体とした噴火活動全体の推移 (Yasui 他, 1997) ⁽⁴⁾ に着目するなどの研究が知られている。

これらをもとに地元史料を加え、火口から北～北東方向に位置する吾妻郡内の3ヶ月におよぶ一連の天明浅間山噴火の経過と降下物について、次のように集約した⁽⁵⁾。

「5月8日ないし9日に降灰が始まり、6月26日の降灰を経ている。7月17日には北軸方向への降灰があったが、北東軸方向への降下の記録は残されていない。

7月27日に始まる29日までの噴火では、北軸方向と北東軸方向へも降灰をもたらした。そして、この29日までの降灰被害は作物に大きな被害を与え、訴状が書付けられるほどであった。他史料で、7月17日の北軸方向の佐渡、7月27日から29日の北東軸方向の東北地方での降下物の記録からも確認される。なお、30日以降の北東地域への降下物の具体的な記録については残されていない。」

天明三年浅間災害にかかわる史料は数々の性質をもったものに分類できる。なかでも、原著者が居住する地域周辺の内容を日付けを明確にしながら記録したものは噴火による降下物の記述についてかなり信頼性が高いと考えられる。この観点から、火口からみて吾妻郡内の北東軸方向の現中之条町東部で記述されたと考えられている片山豊遊氏蔵『天明三年七月 浅間大変記』⁽⁶⁾ と原著者が当時の吾妻郡原町に居住と記録されている富沢久兵衛著『浅間記

〔浅間山津波実記〕^①について引用した。2つの史料は天明の噴火災害全般についての記述とともに、特に郡内への降下物を詳細に記述してある点が高く評価できると考えられる史料である。それぞれ6月26日の降灰を伴う噴火とその前後の部分を、以下に引用した。これより、郡内への降灰が確認される。他の期日との間には「砂、小石」と「灰」の使い分けがなされており、この点から6月26日に降下したのは、軽石ではなく灰であったと判断される。

〔天明三年七月 浅間山大変記〕

四月八日(5/8)二雨降り 浅間山鳴候テ 下沢渡村ノみの原辺 原岩本村辺へ青草ノ上ニ白ク灰降り

五月廿七日(6/26) 近村ニ灰ふり 桑を洗て麥ニくれて…

六月廿七日(7/26) 同廿八日(7/27)之ころ 大岩辺 四万村杯ハ黒灰ふり 鉄砲玉のような砂ましりふり 野等人皆々選我家へ帰ル

七月朔日(7/29) 郡中一統砂降り 別面原岩本村杯ハ厚さ四分斗り降り其節ヨリ粟黍日追てかれ 木も…

〔浅間記 (浅間山津波実記) 上〕

先当四月九日 (5/9) 焼候所拾里四方にて雷電か地震かと思へハ浅間ニ焼立焼上ル それヨリ度々焼

五月廿七日 (6/26) 二諸国ニ灰降ル 其後も度々焼灰降り草木白く成ル 馬ノ草洗テあたへ葉も洗テ麥ニあたへ候得ども 毎日ふり候事なれば麥半吉也

六月十八日 (7/17) 浅間麓田代 大笹 大前鎌原ニ小石三寸程降ル 其後も度々焼灰降候事常陸国迄降ル

七月 (朔日=7/29) 成り毎日、焼ル 信州 上州 相州 武州 越州 野州迄灰ニ 三寸ヨリ五六寸程ノ白毛降ル

(5) 川原湯勝沼遺跡の63区2号畑の畝断面

63区2号畑の畝断面図から、次の6点を読み取り、観察点としたい。①A軽石(本稿ではAs-Aのうち軽石と火山灰を区別し、それぞれ以下A軽石、A灰とする)がブロック状に堆積している部分が、泥流被災した直前の畑(サクイレに対しての後作)のサクと判断される。②おおよそ畝上にはA軽石の堆積はみられず、A軽石の堆積時は高低がより判然としていたものと考えられる。(多少の変形は、その後の泥流の厚密作用によるものと考ええる。)③断面図にみる灰色のA灰層は厚さがいずれも1mm前後で、図中に途切れて3カ所確認される。④3カ所のA灰層のうち畝の直下にあるものは、前作のサクの形状を呈しており、残る両側のA灰層の厚さは同厚値を維持しながらも、不規則に乱れている。この土層の乱れは、麦の株痕を抜き取る耕作痕等によるものとの解釈で説明できる。⑤前述の乱れたA灰層とその周辺の土層は、目視により人為的なブロック層として分層はできない。⑥灰色のA灰は他遺跡で同様のものがみられる場合がある。(例えば久々戸遺跡などであるが、耕作痕を示す断面が得られる訳ではない。)

上記を集約して63区2号畑の畝断面の形状は、「厚さ1mmの灰色のA灰層が、泥流下畑の畝の下にはサクの形状を呈した面に堆積を示し、同じくサク付近の乱れて入るA灰層は畝の部分が割られ人為的に乱された」と判断される形状を呈している」となる。

(6) おわりに

現行農事暦と史料の期日より、図化された断面の解釈は、次のように集約される。

新暦6月26日に、広範な範囲にA灰の降灰があった。農事暦から考えると、麦の刈り取りを直前にした畑のサクに降灰が堆積し、残されたものと考えられる。(それは、「サクイレ」と呼ばれるこの地域という間作により、前作と後作の畝サクが入れ替わったことがその要因と考えられる。)その後、前作の麦刈りが終了し、サクイレされた後作の作物の生育

に伴い培土がおこなわれ、サク部分は畝に変わった。後作の作物が成育中に8月5日の天明泥流により被災した。(但し農事暦からみた場合、サクイレではなく、麦刈り後に畑の起返しがおこなわれず畝が残された状態で、黍の播種・大豆の移植等がおこなわれた場合の可能性は残される。なお、黍は稗・粟に比べると栽培期間が短く、この地方ではサクイレはおこなわれなかったと聞く。)

その鍵となる農事暦等の期日は、後作の播種・移

植がおこなわれた6月、A灰降下の新暦6月26日、7月始に終了させる麦刈り、7月27日～29日にかけてのA軽石の降下、8月5日の泥流被災である。

軽石の降下日に加えて、降灰層を発掘調査における期日を限定する狭義の鍵層と位置づけることは、災害とこの地域で営まれた人々の生活を解明する一材料に追加することができると考える。今後共、発掘調査における観察の視点として、本稿がその蓄積の一端となれば幸いである。

注及び参考文献

- (1) 関 俊明・蒲田康成「天明三年浅間災害に関する地域史的研究 -北東地域に降下した浅間A軽石の降下日時時の考古学的検証-」『研究紀要』16 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1999
- (2) 『宮崎県史』資料編 民俗1 1993
- (3) 『伊勢崎市史』民俗編 1989
- (4) 安井真也・小屋口剛博・荒牧重雄「埋積物と古記録からみた浅間火山1783年のブリーク式噴火」『火山』第42巻 第4号 1997
- (5) 『中之条町誌』資料編 p.815 p.819-821 1983
- (6) (5)では『浅間大要記』という標題名であるが、萩原進は『浅間山天明噴火史料集成Ⅱ』p.157-177 1986で『天明浅間山地獄聞覚書』としている。また、同じく『浅間山天明噴火史料集成Ⅱ』のなかに同名の『浅間大要記』を括弧書きで用いた史料もある。現中之条町東部での泥流直下の種子が特に詳細に記録され、厚着者がこの付近に居住していたことがわかる。詳細な記録が残されているということ、浅間山火口から北東輪方向にある現中之条町周辺の降停灰についての信頼がおける史料であると思われる。
- (7) 萩原進『浅間山天明噴火史料集成Ⅱ』群馬県文化事業振興会p.121-153 1986

第2表 掘削遺跡出土石器組成表

品名	山頂遺跡		北沢遺跡内遺跡外																										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	
削片石器類	45	16	29	33																									
石鏃	11	4	7	9	1																								
石鏃	12	5	7	8	1																								
石鏃	10	4	6	7	1																								
石鏃	12	3	9	9	2																								
石鏃	5	4	1	5																									
石鏃	3	0	3	2	1																								
石鏃	1	1	0	2	1																								
石鏃	2	2	0																										
加工面のある石鏃	23	10	12	18	3																								
加工面のある石鏃	8	2	6	8																									
石鏃	6	2	4	6																									
石鏃	4	2	2	2	1	1																							
打製石鏃	4	2	2	2	1																								
石鏃	11	4	7		7																								
石鏃	2	2	0	1																									
石鏃	1	0	1																										
石鏃	4	2	2	2																									
石鏃	2	1	1		2																								
加工面のある石鏃	1	0	1		1																								
加工面のある石鏃	2	0	2		1																								
石鏃	2	1	1		1																								
石鏃	16	6	10		3	2	2	6	1																				
石鏃	12	7	5		1	3	5	1																					
石鏃	12	7	5		2	7	5	1																					
石鏃	11	7	4		7		4																						
石鏃	176	78	96	72	2	8	15	32	9	2	0	3	0	0	1	5	3	5	2	2	5	2	1	2	1	1	0	0	0
削片石器類	3	0	3	3																									
石鏃	2	0	2	2																									
石鏃	3	0	3	3	1																								
加工面のある石鏃	4	2	4																										
石鏃	1	0	1																										
石鏃	1	0	1																										
石鏃	2	2	5		2																								
石鏃	1	0	1																										
加工面のある石鏃	19	4	15		2	3	10																						
石鏃	4	0	3		1																								
石鏃	9	9	6		1																								
石鏃	7	2	5																										
石鏃	7	0	5																										
加工面のある石鏃	3	0	3																										
石鏃	14	0	14		1	5																							
石鏃	2	0	2																										
石鏃	1	0	1																										
石鏃	55	6	49	13	4	0	6	4	19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7	2	1	0	1	0	0

第 3 表 掲載遺跡出土石器組成表

石器説明	下田遺跡																																	
	総数	遺構内	遺構外	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB			
砥石	2	3	0																															
大打ち石	4	4	0			4																												
砥石	1	1	0																															
加工面のある石器	3	3	0																															
総 数	11	11	0			4																												

石器説明	成茂遺跡																																		
	総数	遺構内	遺構外	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB				
砥石	3	0	3																																
加工面のある石器	2	0	2			2																													
打製石片	3	0	3										1																						
加工面のある石器	2	0	2			1																													
石片	4	0	4			1						1																							
石片	1	1	0																																
石腕	1	0	1										1																						
総 数	18	1	17			5						2																							

石器説明	新大塚遺跡																																			
	総数	遺構内	遺構外	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB					
砥石	3	0	3																																	
石腕	2	0	2			1																														
伏形面のある石器	3	0	3																																	
石腕	1	0	1			1																														
スケレイバー	1	0	1																																	
打製石片	2	0	2																																	
磨り石	2	0	2																																	
石片	1	0	1																																	
加工面のある石器	1	0	1																																	
石片	6	0	6			1						1																								
石片	1	0	1																																	
石片	3	0	3																																	
磨 刀	6	0	6																																	
総 数	32	0	32			8						2																								

石器説明	成茂遺跡																																			
	総数	遺構内	遺構外	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB					
石片	1	0	1																																	
磨 刀	1	0	1																																	
総 数	2	0	2																																	

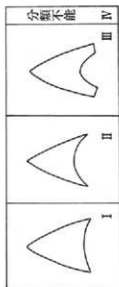
石器説明	三平 1 遺跡																																			
	総数	遺構内	遺構外	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB					
砥石	1	0	1																																	
石腕	1	0	1																																	
石片	1	0	1																																	
総 数	2	0	2																																	

第4表 掲載遺跡出土石器組成表

二土平遺跡		遺跡内																												
石器部類	種別	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	
磨石部類	片石	1	0	1																						1				2
	磨片	4	0	4		1																								2
雑器	鏃	2	0	2																										1
	鏃	7	0	7																										0
下白土遺跡	磨石部類	2	0	2																										1
	雑器	2	0	2																										1
鹿島遺跡	磨石部類	2	0	2																										1
	雑器	2	0	2																										1

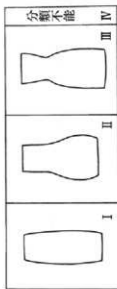
第5表 西久保I遺跡 石器分類表

分類	遺物
I部…高さが低い型状を示す	46区2住-4、46区5住-2、46区6住-17・18、46区遺跡外-60・105・106・107・109、47区遺跡外-108
II部…高さが高い型状を示す	36区遺跡外-110、46区3住-3、46区5住-3、46区6住-11・15、46区遺跡外-28・37・58・112・113、47区水場2土坑-6、47区遺跡外-111
III部…高さが低い型状を示す。単体の返しを磨削して作成している	46区2住-5、46区5住-4、46区6住-13・14、46区遺跡外-35・54・59・62、47区遺跡外-114・116
IV部…分類不能	46区1住-6、46区6住-12・16、46区遺跡外-34・38・37・53・56・61・117・118・119



第6表 山根田遺跡 打斧分類表

分類	遺物
I部…いわゆる短型型。左石の側面が直線を示す	24区1住-9、24区遺跡外-62・63・67
II部…直線と同様に傾斜型であるが、傾斜が左側に傾かない型状を指し、若干開いた形となる	24区遺跡外-54、24区遺跡外-65・66・68・69・70
III部…I、II部より大形で傾斜の形状となる。上半部は斜りを持つ	24区1住-7、24区遺跡外-57
IV部…分類不能	24区1住-8、24区7土坑-2、24区遺跡外-58・59・60・71・72



No.	撮影年月	種別	P.L.	撮影機材	撮影場所	種別	大きさ	重量	石材	形状特徴等	備考
95	西大深1	61	85	46-6	石	石	長1.65幅1.29厚0.58	0.47	細粒石灰岩山出骨	中国の河川、	富士
96	西大深1	61	85	46-6	11	石	長1.65幅1.17厚0.53厚0.47		粗粒石灰岩山出骨	交刺、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
97	西大深1	61	85	46-6	12	石	長2.1幅1.62厚0.43厚0.39		粗粒石灰岩山出骨	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
98	西大深1	61	85	46-6	13	石	長2.07幅1.35厚0.35厚0.38		チャート	側面が傾斜し、蓋面は傾斜を見せる。	富士
100	西大深1	61	85	46-6	14	石	長1.65幅1.29厚0.47厚0.39		石	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
101	西大深1	61	85	46-6	15	石	長1.65幅1.29厚0.47厚0.39		石	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
102	西大深1	61	85	46-6	16	石	長1.65幅1.29厚0.47厚0.39		石	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
103	西大深1	61	85	46-6	17	石	長1.65幅1.29厚0.47厚0.39		石	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
104	西大深1	61	85	46-6	18	石	長1.65幅1.29厚0.47厚0.39		石	一部欠損、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
105	西大深1	62	85	46-6	19	加工済のある石	長1.57幅0.79厚0.27厚0.25		黒曜石	黒曜石文、無蓋で蓋面は傾斜を見せる。	富士
106	西大深1	62	85	46-6	20	加工済のある石	長1.65幅0.57厚0.33厚0.33		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
107	西大深1	62	85	46-6	21	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
108	西大深1	62	85	46-6	22	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
109	西大深1	62	85	46-6	23	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
110	西大深1	62	85	46-6	24	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
111	西大深1	62	85	46-6	25	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
112	西大深1	62	85	46-6	26	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
113	西大深1	62	85	46-6	27	加工済のある石	長1.65幅1.25厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
114	西大深1	62	85	46-6	28	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
115	西大深1	62	85	46-6	29	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
116	西大深1	62	85	46-6	30	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
117	西大深1	62	85	46-6	31	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
118	西大深1	62	85	46-6	32	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
119	西大深1	65	85	47-水	6	石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
120	西大深1	66	85	47-水	7	石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
121	西大深1	66	85	47-水	8	打穿石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
122	西大深1	66	85	47-水	132	石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
123	西大深1	67	85	47-水		石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
124	西大深1	67	85	47-水		石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
125	西大深1	67	85	47-水		石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
126	西大深1	67	85	47-水		石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
127	西大深1	78	85	47-上	1	石	長1.6幅1.65厚0.43厚0.43		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
128	西大深1	85	82	85	24	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
129	西大深1	85	82	85	25	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
130	西大深1	85	82	85	26	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
131	西大深1	85	82	85	27	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
132	西大深1	85	82	85	28	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
133	西大深1	85	82	85	29	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
134	西大深1	85	82	85	30	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
135	西大深1	89	86	86	86	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
136	西大深1	89	86	86	87	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
137	西大深1	89	86	86	88	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
138	西大深1	89	86	86	89	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
139	西大深1	89	86	86	90	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
140	西大深1	89	86	86	91	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
141	西大深1	89	86	86	92	石	長1.55幅1.07厚0.41厚0.40		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
142	西大深1	90	87	87	93	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
143	西大深1	90	87	87	94	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士
144	西大深1	90	87	87	95	石	長1.4幅1.19厚0.38厚0.44		黒曜石	黒曜石に蓋面から小溝が透れ見られる。	富士

No.	建群名	用途	下工	建群市上位置	建物名	面積	大きさ	重量	石材	形状・特徴等	備考
288	下田	115	92	44-1住	29 礎石	長(12.0)幅(3.9)高さ(2.3)33			礎石	2層階。表、正面は石の1層に基礎石の露出あり、	
289	下田	115	92	44-1住	20 礎石	長(11.0)幅(3.9)高さ(1.7)19			礎石	2層階。裏面は1層、側面には露出が可能な残存。背面を欄干欄間に	
290	下田	116	92	44-1住	33 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層=			細粒砂岩(安山岩)	全周に欄干が残り、透きかかっている子が見受けられる。上面には、欄	
291	下田	116	92	44-1住	34 水打石	長5.5幅3.7厚2.3重0.3			流紋岩	加工済の面が残り、少くとも3つもの減材がここから取られていること	
292	下田	119	93	45-2-2層	13 石目	長さ2.2幅1.0高さ14.4重-			細粒砂岩(安山岩)	欄干は平らで、上面は欄干の凹みが付られている。4層階は向かい合った	
293	下田	119	93	建群外	2 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(5)5(5)			細粒砂岩(安山岩)	の加工が同一となる。正面と背面の加工は角が削いで、裏方に近い部	
294	花壇	168	94	建群外	19 1-1住	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	が浅く1層の幅の深さ4.0となる。以下同様に正面5.0×6.0×4.8、背	
295	花壇	168	94	建群外	14 石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	面5.0×5.5×3.1となる。	
296	花壇	168	94	建群外	15 石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	一部欠損。	
297	花壇	168	94	建群外	16 石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
298	花壇	168	94	建群外	17 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
299	花壇	168	94	建群外	18 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
300	花壇	168	94	建群外	19 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
301	花壇	168	94	建群外	20 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
302	花壇	168	94	建群外	21 加工済のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
303	花壇	168	94	建群外	22 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
304	花壇	168	94	建群外	23 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
305	花壇	168	94	建群外	24 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
306	花壇	168	94	建群外	25 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
307	花壇	168	94	建群外	26 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
308	花壇	168	94	建群外	27 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
309	花壇	168	94	建群外	28 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
310	花壇	183	96	建群外	43 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
311	花壇	183	96	建群外	44 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
312	水田	183	96	建群外	64 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
313	水田	183	96	建群外	64 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
314	水田	183	96	建群外	67 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
315	水田	183	96	建群外	67 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
316	水田	183	96	建群外	67 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
317	水田	182	96	建群外	67 ステイル	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
318	水田	182	96	建群外	69 粗粒質のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
319	水田	182	96	建群外	70 粗粒質のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
320	水田	182	96	建群外	71 粗粒質のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
321	水田	182	96	建群外	72 石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
322	水田	182	96	建群外	73 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
323	水田	182	96	建群外	74 打抜石	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
324	水田	182	96	建群外	75 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
325	水田	182	96	建群外	76 砕片	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
326	水田	182	96	建群外	77 粗粒質のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	
327	水田	182	96	建群外	78 粗粒質のある石積	長さ(幅)高さ(厚)2層(3)3(3)			流紋岩	変形、断面が断面で変形が見られる。	

№	遺跡名	種別	下し	遺跡所在位置	遺跡No.	面積	大きさ・重要度	石積	形状・内容	形状・内容	備考
329	奥本遺	153	遺跡外	遺跡外	29	白石	長2.7m幅2.3m(1.3m)重要	形造石瓦山笠	交角、円壁、溝面に凹みが見られる。	440-15.3層	
330	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.9m幅1.7m(1.3m)	彩色瓦葺山笠	彩色瓦葺山笠	453-15.3層	
331	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.4m幅1.3m(1.3m)	積瓦葺山笠	積瓦葺山笠、瓦葺山笠、彩色瓦葺山笠	453-15.3層	
332	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.8m幅1.3m(1.3m)	積瓦葺山笠	交角、中平部の円壁。	453-15.3層	
333	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長2.5m幅2.7m(2.7m)143	形造石瓦山笠	中平部の円壁。	444-11.3層	
334	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.0m幅1.0m(1.1m)19	彩色瓦山笠	細長円柱。	440-10.3層	
335	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長3.1m幅2.0m(1.6m)20	彩色瓦山笠	小型の円壁、溝に凹みあり。	440-8.3層	
336	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.1m幅1.0m(1.2m)178	彩色瓦山笠	円壁の円壁。	440-9.3層	
337	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.6m幅1.0m(1.5m)172	形造石瓦山笠	交角中平部で細長い円壁、溝面あり。	440-10.3層	
338	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長2.0m幅1.5m(1.5m)19	形造石瓦山笠	細長円柱。	440-10.3層	
339	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.3m幅1.5m(1.5m)3	積瓦葺山笠	細長円柱。	440-10.3層	
340	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.5m幅1.2m(1.4m)1	形造石瓦山笠	小型の円壁、断面らしきものが溝面に突き出ている。	440-10.3層	
341	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.3m幅1.4m(1.4m)27	形造石瓦山笠	細長円柱。	440-10.3層	
342	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.3m幅1.0m(1.0m)1	形造石瓦山笠	細長円柱。	440-10.3層	
343	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.1m幅1.0m(1.0m)1	積瓦葺山笠	円壁に面した壁の円壁。	440-10.3層	
344	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.1m幅1.0m(1.0m)15	積瓦葺山笠	円壁に面した壁の円壁。	440-10.3層	
345	奥本遺		遺跡外	遺跡外			長1.1m幅1.0m(1.0m)18	積瓦葺山笠	円壁に面した壁の円壁。	440-10.3層	
346	二社平	194	遺跡外	遺跡外	10	白石	長13.7m幅10.11m(10.3m)186	形造石瓦山笠	交角、溝面に凹みが見られる。礎石あり。中平部で後出された石と繋がり、中平部長の形状。	440-10.3層	
347	二社平		遺跡外	遺跡外			長13.7m幅10.11m(10.3m)186	形造石瓦山笠	交角、溝面に凹みが見られる。礎石あり。中平部で後出された石と繋がり、中平部長の形状。	440-10.3層	
348	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.0m幅0.6m(0.7m)27	形造石瓦山笠	細打角の柱は全部とも見られる。	1.1トレンチ	
349	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.3m幅2.7m(1.4m)12	ガラス瓦葺山笠	山笠の下の瓦葺山笠の残片。	1.1トレンチ2層	
350	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.6m幅1.2m(1.2m)5	ガラス瓦葺山笠	小型円柱。	1.1トレンチ1層	
351	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.6m幅1.0m(1.0m)1	ガラス瓦葺山笠	小型円柱。	1.1トレンチ1層	
352	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.7m幅1.0m(1.2m)6	ガラス瓦葺山笠	小型円柱。	1.1トレンチ1層	
353	二社平		遺跡外	遺跡外			長1.7m幅1.0m(1.2m)6	彩色瓦山笠	円壁。	1.1トレンチ1層	
354	下田		遺跡外	遺跡外			長1.4m幅1.2m(1.2m)2	彩色瓦山笠	深さ中のものか？	1.1トレンチ1層	
355	下田		遺跡外	遺跡外			長1.4m幅1.2m(1.2m)2	ガラス瓦葺山笠	礎石に小溝が掘られた跡が観察される。	2.1トレンチ1層	

付編4 遺構一覧表

※土坑の形状については、西久保1遺跡、花畑遺跡の分類を基にしているので参照していただきたい。

YD1-02 東宮遺跡

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	走向	軌幅	軌高	-	-	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
94-1号畑	94区	東西	0.46~0.51	0.03~0.06							6	2-3	
51-1号畑	51区	北西~南東	約1.2								7	2	

YD1-03 石塚遺跡

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	走向	軌幅	軌高	-	-	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
94-1号畑	94区	東西	0.46~0.51	0.03~0.06							11	5	
94-2号畑	94区	東西	0.22~0.25	0.04							13		

土坑

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
84-1号土坑	84V-24	N-S-E	1.28×1.16	0.60×0.57	0.36	A 7 3	弥生2点				14	5	
84-2号土坑	84X-25	N-77°-W	0.97×0.66	0.78×0.35	0.21	E5					14	5	
84-3号土坑	84V-24	N-12°-E	0.69×0.66	0.377×(0.32)	0.27	B3					15	5	
84-4号土坑	84X-24	N-9°-W	0.822×(0.54)	0.33×0.23	0.2	B2					15	5	
84-5号土坑	84V-24	N-1°-W	0.96×0.80	0.32×0.28	0.21	B5	縄文1点				14	6	
84-6号土坑	84V-25	N-90°	1.91×1.11	1.58×0.81	0.6	D					15	6	
84-7号土坑	84V-25	N-88°-E	0.72×0.73	0.40×(0.35)	0.87	A2 7					15	6	
94-1号土坑	94N-2	N-33°-E	0.55×(0.40)	0.35×(0.25)	0.15	A 7 5	縄文1点				15	6	

石塚

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
石塚B石塚	94E-6	-	-	-	-	-	石塚5点				16-17	5	

谷

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
84-1号谷	84V-24	南北	9.50×5.50		0.68		縄文25点 弥生2点 須磨野2点 不明1点 鉄器1点 石器27点				17-18-19	6	
84-2号谷													
94-1号谷		南北	17.40×(8.50)										
94-2号谷		南北	10.40×1.90								19		

YD2-01 川原湯器沼遺跡

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	走向	軌幅	軌高	-	-	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
63-1号畑	63区	北東~南西	0.35	0.02							23	8-9	
63-2号畑	63区	東西	0.47	0.05							23-24	8-9	
64-1号畑	64区	北東~南西	0.35	0.03							25	9	

土坑

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
63-1号土坑	63X-23	N-50°-E	(0.60)×0.50	-	-	-	縄文2点				26	9	
63-2号土坑	737-1	N-88°-W	(1.95)×1.05	(1.95)×(0.95)	-	-	縄文1点				27		

YD3-01 横塚器沼遺跡

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模	壁高	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
16-1号住居	16R-15	N-129°-E	4.44×3.78	14.1	0.25	隅丸方形	縄文2点 須磨野2点 鉄器1点				34-35	12	

土坑

遺											(単位:m ²)		
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重覆	備考	図 版	P	L	
6-1号土坑	6B-11	N-46°-E	2.82×1.41	2.35×0.95	0.83	B 1	弥生4点 石器2点				編し式	36	13
6-2号土坑	6D-17	N-12°-E	1.53×1.00	0.86×0.63	0.35	D 1	鉄器4点 骨片				編し式	38	13
6-3号土坑	6C-15	N-56°-E	0.97×0.76	0.65×0.54	0.31	E2					39	13	
6-4号土坑	6E-12	N-28°-W	1.28×0.99	1.12×0.83	0.32	B 1					39	13	
6-5号土坑	6E-13	N-82°-W	2.08×1.14	1.71×0.95	0.88	D 7 1					編し式	37	14

付圖 4

遺構番号	位置	方位	上部規模 (長軸×短軸)	底部規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重復	備考	図版	P L
18-1号土坑	160-15	N-18°-W	3.32×1.36	0.38×0.36	0.77	B形			随土穴	37	14
18-2号土坑	167-13	N-82°-W	1.03×0.79	0.80×0.40	0.32	D1			土坑墓	38	14
18-3号土坑	165-13	N-82°-W	1.22×0.68	1.05×0.51	0.2	B2			土坑墓	39	14
18-4号土坑	165-13	N-85°-W	1.01×0.84	0.56×0.34	0.46	B2				39	

溝

遺構番号	位置	方位	上部規模 (長軸×短軸)	底部規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重復	備考	図版	P L
17-1号溝	170-18	南北	2.76×2.12	2.24×1.26	1.02					40	14

(単位:m)

YD3-02 西久保1遺跡

遺構番号	位置	方位	柱間距離 (長短×長短)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重復	備考	図版	P L
66-1号礎石建物	46S-5	東西横	0.98-1.40	-	-	方形?			詳細不明	63	22

(単位:m)

住居

遺構番号	位置	方位	上部規模 (長軸×短軸)	底部規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重復	備考	図版	P L
66-1号住居	36L-25	不明	-	-	-		土 瓦5点 石器11点		詳細不明	47	17
66-1号住居	45T-2	N-6°-W	-	-	-		縄文2点 須恵器1点 石器17点	46-2溝(古)		48-49	18
66-2号住居	46L-4	N-15°-E	-	-	0.25		縄文2点 須恵器1点 石器17点	46-3住(新)		50-51-52-53	19
66-3号住居	46L-4	不明	-	-	0.31		縄文2点 石器3点	46-2住(古)		54-55	20
66-5号住居	46V-4	N-30°-E	-	-	-		縄文1点 石器17点			56-57-58-59	21
66-6号住居	46V-6	不明	-	-	-		縄文10点 石器21点	前片廃棄場(新)		60-61-62	22

(単位:m)

土坑

遺構番号	位置	方位	上部規模 (長軸×短軸)	底部規模 (長軸×短軸)	深さ	形状	出土遺物	重復	備考	図版	P L
66-1号土坑	36Q-24	N-25°-E	1.78×1.18	1.40×0.80	0.4	D2				65	23
66-2号土坑	36M-25	N-70°-W	(1.56)×(1.32)	0.80×0.60	0.24	E5				66	23
66-3号土坑	36L-24	N-65°-E	1.12×0.70	0.68×0.50	0.21	F5	縄文1点			66	23
66-4号土坑	36L-25	N-6°-E	2.40×1.10	1.15×1.20	0.52	E2				66	23
66-6号土坑	36M-25	N-65°-E	0.52×0.28	0.28×0.24	0.26	F4				66	23
66-8号土坑	36L-25	N-14°-W	0.76×0.50	0.46×0.18	0.23	E3				66	23
66-1号土坑	46T-3	N-65°-E	(0.75)×(0.68)	0.47×0.28	0.42	D0			46-4・5土(新)	67	24
66-2号土坑	46L-3	N-15°-W	0.86×0.67	0.37×0.25	0.3	B3				67	24
66-4号土坑	46T-3	N-15°-W	(1.32)×(1.24)	(1.22)×(1.12)	0.26	C2	縄文		46-1溝・1土(古)	67	24
66-5号土坑	46L-3	N-67°-E	1.16×(0.60)	0.76×0.49	0.46	B5			46-1土(古)	67	24
66-6号土坑	47A-6	N-25°-E	0.76×0.52	0.33×0.28	0.2	B3				68	24
66-8号土坑	46X-6	N-56°-W	(1.76)×(1.56)	-×(1.33)	0.76	A2	縄文1点			68	24
66-9号土坑	46V-6	N-73°-E	0.92×0.77	0.35×-	0.47	A2			46-10土(新)	69	24
66-10号土坑	46V-6	N-50°-E	1.02×-	0.92×-	0.28	B2			46-9土(古)	69	24
66-11号土坑	46V-7	N-57°-E	0.77×0.48	0.32×0.24	0.28	E1				69	25
66-12号土坑	46V-7	N-28°-W	0.45×0.37	0.25×0.20	0.11	E5				69	25
66-13号土坑	46V-8	N-65°-E	0.58×0.47	0.29×0.16	0.19	E5				70	25
66-14号土坑	46L-8	N-66°-W	0.37×0.35	0.27×0.27	0.21	A2				70	25
66-15号土坑	46V-7	N-15°-W	0.53×0.52	0.30×0.30	0.2	E5				69	25
66-17号土坑	46V-8	N-32°-E	0.47×0.34	0.13×0.12	0.34	F5				69	25
66-18号土坑	46M-1	N-56°-E	0.72×0.64	0.39×0.29	0.46	A4				69	25
47-1号土坑	47I-21	N-89°-W	0.32×(0.30)	0.25×0.24	0.17	A1				74	26
47-2号土坑	47I-21	N-2°-W	0.28×0.28	0.24×0.22	0.15	A1				74	26
47-3号土坑	47I-21	N-86°-E	0.46×0.41	0.27×0.16	0.26	A2				74	26
47-4号土坑	47I-21	N-8°-W	0.30×0.34	0.25×0.20	0.14	A1				74	26
47-5号土坑	47I-21	N-7°-E	0.44×0.41	0.30×0.30	0.17	A5				74	26
47-6号土坑	47I-21	N-9°	0.44×0.44	0.30×0.30	0.41	A1			pit 6?	74	26
47-7号土坑	47I-21	N-85°-W	0.29×0.26	0.14×0.14	0.26	A4			pit 6?	74	26
47-8号土坑	47H-21	N-17°-E	2.30×1.00	2.02×0.74	0.39	B2	縄文1点			70	26
47-9号土坑	47I-21	N-82°-E	0.45×0.38	0.28×0.28	0.2	A1				75	27
47-10号土坑	47I-21	N-45°-W	0.46×0.33	0.26×-	0.3	B1				75	27
47-11号土坑	47H-21	N-39°-W	0.55×0.48	0.42×0.40	0.39	A2			pit 6?	75	27
47-12号土坑	47H-21	N-45°-E	0.46×0.38	-	0.36	E1				75	27

(単位:m)

遺跡番号	位置	方位	上部規模 (長×幅×高)	底部規模 (長×幅×高)	深さ	形状	出土遺物	層位	備考	図版	P. I.
47-13号土坑	47I-22	N-32°E	0.45×0.45	0.53×0.20	0.13	A3				75	27
47-14号土坑	47I-22	N-13°W	0.38×(0.21)	0.13×(0.11)	0.28	A1		47-15土(竹)		75	27
47-15号土坑	47I-22	N-3°E	0.54×0.47	0.33×0.28	0.25	D2		47-14土(薪)		75	27
47-16号土坑	47I-23	N-4°W	0.21×0.20	0.13×0.10	0.1	A2				75	27
47-17号土坑	47I-22	N-63°E	0.40×0.28	—	0.18	B1				75	27
47-18号土坑	47I-22	N-64°W	0.36×0.29	0.20×0.16	0.13	A2				75	27
47-19号土坑	47I-23	N-9°	0.42×0.42	0.32×—	0.2	A3				75	28
47-20号土坑	47I-23	N-29°E	0.30×0.21	0.18×0.14	0.37	B3		pit 台?		76	28
47-21号土坑	47I-23	N-55°E	0.30×0.25	0.11×0.05	0.34	C3		pit 台?		76	28
47-22号土坑	47I-22	N-40°W	0.42×0.35	0.18×0.14	0.32	C3		pit 台?		76	28
47-23号土坑	47I-22	N-29°E	1.14×0.90	—	0.33	A5	縄文1点			76	28
47-24号土坑	47I-23	N-80°E	0.75×0.47	0.58×0.30	0.3	B5		pit 台?		76	28
47-25号土坑	47I-21	N-57°E	0.54×0.36	0.44×0.25	0.39	B1		pit 台?		76	28
47-26号土坑	47I-22	N-69°W	0.25×0.20	0.12×0.12	0.25	A1		pit 台?		76	28
47-27号土坑	47I-22	N-84°E	0.34×0.21	0.24×—	0.21	B1				76	28
47-28号土坑	47I-22	N-71°W	(0.70)×0.40	—	0.33	B1				76	29
47-29号土坑	47I-22	N-7°E	0.78×0.74	—	0.21	A1				76	29
47-30号土坑	47I-22	N-21°W	0.96×0.80	0.84×0.70	0.24	A1				77	29
47-31号土坑	47I-23	N-61°E	0.44×0.38	0.24×0.23	0.25	A1		pit 台?		76	29
47-32号土坑	47I-23	N-79°W	0.34×0.27	—	0.15	A1				77	29
47-33号土坑	47I-23	N-52°W	0.56×0.32	0.40×0.18	0.21	B1				77	29
47-34号土坑	47I-23	N-25°E	0.38×0.34	0.22×(0.11)	0.21	A2				77	29
47-35号土坑	47G-22	N-38°E	0.72×0.44	0.47×0.30	0.15	E2				77	29
47-36号土坑	47G-22	N-36°W	0.84×0.64	0.58×0.42	0.3	D6	縄文1点			78	30
47-37号土坑	47G-21	N-75°E	0.86×0.70	0.76×0.62	0.28	A2				78	30
47-38号土坑	47G-21	N-85°E	0.38×0.32	0.18×0.12	0.44	A1				76	30
47-39号土坑	47G-21	N-62°E	1.06×0.82	0.84×0.52	0.48	E1				71	30
47-40号土坑	47G-21	N-39°E	0.80×0.72	0.78×0.46	0.31	D1	縄文1点			71	30
47-41号土坑	47G-20	N-12°E	1.24×0.98	0.80×0.70	0.33	E1				71	30
47-42号土坑	47G-20	N-45°E	1.79×0.92	1.34×0.76	0.31	D2				72	30
47-43号土坑	47G-20	N-40°E	0.82×0.76	0.48×0.15	0.3	A2				77	30
47-44号土坑	47G-20	N-35°E	1.48×1.00	1.14×0.88	0.37	C5	縄文1点			72	30
47-45号土坑	47H-20	N-64°W	0.70×0.53	0.24×0.24	0.47	A2		pit 台?		77	31
47-46号土坑	47H-19	N-42°E	0.36×0.30	—	0.23	A2				28	31
47-47号土坑	47G-20	N-30°E	1.50×1.10	1.36×0.92	0.25	B2				28	31
47-48号土坑	47F-19	N-10°E	1.16×0.95	0.84×0.62	0.27	B3	縄文1点			72	31
47-49号土坑	47G-19	N-3°E	0.46×0.34	—	0.32	A3	石器1点			78	31
47-50号土坑	47G-21	N-30°E	0.64×0.48	0.21×0.16	0.43	E5		pit 台?		28	31
47-51号土坑	47G-23	N-24°E	2.50×0.73	2.30×0.55	0.33	B2		pit 台?		73	31
47-52号土坑	47I-23	N-56°E	0.58×0.36	0.45×0.25	0.32	A1		pit 台?		78	31
47-53号土坑	47G-18	N-22°W	0.90×0.48	0.40×0.40	0.41	E3				28	32
47-54号土坑	47H-22	N-85°W	1.40×0.82	0.90×0.45	0.4	B3				28	32
47-55号土坑	47H-22	N-74°W	0.54×0.14	0.48×0.09	0.37	D1				73	32
47-56号土坑	47H-22	N-62°W	0.41×0.28	0.30×0.20	0.25	E3				73	32
47-57号土坑	47I-23	N-24°W	0.66×0.48	0.43×0.27	0.19	B2				79	32
47-58号土坑	47G-22	N-40°E	0.45×0.32	0.34×0.18	0.17	B2				79	32
47-59号土坑	47F-22	N-82°W	1.75×1.25	1.50×1.02	0.22	D2				79	32
47-60号土坑	47I-24	N-73°E	0.42×0.29	0.30×0.21	0.18	B1	縄文1点			79	32
47-61号土坑	47H-23	N-15°E	0.34×0.28	0.20×0.14	0.15	A2				79	32
47-62号土坑	47H-19	N-31°W	0.80×0.66	0.78×0.52	0.19	E2				79	32
47-63号土坑	47C-22	N-15°W	0.28×0.28	0.18×0.16	0.2	A1		pit 台?		79	32
47-64号土坑	47F-18	N-12°W	0.64×(0.64)	0.51×0.20	0.28	E5				79	33
47-65号土坑	47E-18	N-30°E	1.70×1.10	1.46×0.98	0.68	E2				80	33
47-66号土坑	47F-19	N-65°W	0.22×0.20	0.18×0.15	0.41	A1		pit 台?		79	33
47-67号土坑	47E-17	N-3°W	0.40×0.30	0.30×0.28	0.14	B2				79	33
47-68号土坑	47E-23	N-77°W	0.69×0.35	0.33×0.12	0.22	E3				80	33
47-69号土坑	47E-23	N-56°W	0.46×0.38	0.18×0.11	0.22	E2				80	33
47-70号土坑	47E-22	N-6°	0.35×0.25	0.26×0.24	0.22	A1				80	33
47-71号土坑	47F-22	N-6°W	0.20×0.20	0.10×0.10	0.24	A2		pit 台?		80	33
47-72号土坑	47C-19	N-80°W	0.28×0.21	0.15×0.08	0.18	B2		pit 台?		80	34
47-73号土坑	47G-18	N-56°E	1.02×0.78	0.52×0.30	0.28	B2	縄文1点			80	34
47-74号土坑	47F-18	N-6°	0.78×0.78	0.42×0.39	0.19	A5				80	34

付編4

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
47-78号土坑	47I-22	N-4°E	0.36×0.32	0.23×0.20	0.28	A1					
47-79号土坑	47G-20	N-37°E	0.35×0.35	0.22×0.19	0.21	A3			pit 少?	80	34
47-80号土坑	47F-20	N-42°E	0.53×0.50	0.30×0.24	0.5	E2			pit 少?	80	38
47-81号土坑	47F-21	N-54°E	0.25×0.30	0.23×0.18	0.25	A1			pit 少?	80	38
47-82号土坑	47G-19	N-82°W	0.38×0.22	0.16×0.12	0.2	A1			pit 少?	80	38
47-83号土坑	47A-7	N-47°E	1.28×1.12	1.05×0.90	0.34	E2				74	34

pit

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
36-4号pit	36L-25	N-19°W	0.40×0.33	0.22×0.14	0.33	A1				81	23
36-8号pit	36M-25	N-22°W	0.50×0.40	0.30×0.22	0.2	B2				81	23
46-2号pit	46M-1	N-45°E	0.62×0.60	—	0.5					81	25
46-3号pit	46M-1	N-15°E	—	—	0.38					81	25
46-5号pit	46M-1	N-0°	0.46×0.42	0.38×0.30	0.31					81	26

溝

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
46-1号溝	46U-3	南西-北東	0.90×0.40	0.65×0.20	0.30- 0.55					82	35
46-2号溝	46T-2	南西-北東	0.80×0.40	0.46×0.16	0.35- 1.10		ビール集1点 石 器1点	46-1住(新)		82	35
46-3号溝	47A-8	西南-北東	0.60×0.04	0.22×0.04	0.15					83	35
46-4号溝	47A-8	西南-北東	0.80×0.40	0.40×0.10	0.35- 1.10					83	35

水場遺構

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
47区水場遺構	47E-20	東-西	8.80×3.92	5.80×3.30	1.33	馬蹄形	縄文3点 石器6 点			84-85- 86	36-37
47区水場遺構-1 号土坑	47F-20	N-80°W	1.49×0.79	1.02×0.32	0.6	D2	縄文1点			85	36-37
47区水場遺構-2 号土坑	47E-21	N-30°W	(1.56)×(0.98)	(0.85)×0.46	0.49	E2	縄文1点			85	36-37

銅片産出地

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
46区銅片産出地	46V-3- 4中心	南-北							46-6住(古)	87-88- 89-90	38

YD3-04 山根倉遺跡

住居

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	確認面積	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
24-1号住居	24G-13		(4.60)×(1.90)	5.60	0.82	円形?	縄文4点 石器5点	24-15土(内)		99-100	40

土坑

(単位:m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重積	備考	国 版	P. L
23-1号土坑	23V-11	N-47°E	0.76×0.62	0.56×0.30	0.67	D3				101	40
24-1号土坑	24B-12	N-68°E	0.87×0.66	0.46×0.30	0.31	E3				101	40
24-2号土坑	24B-14	N-68°W	1.18×0.66	1.06×0.55	0.48	B2				101	41
24-3号土坑	24B-15	N-68°W	0.99×0.78	0.30×0.17	0.3	B3				101	41
24-4号土坑	24C-18	N-0°	0.81×0.62	0.30×(0.34)	0.4	B2				101	41
24-5号土坑	24D-19	N-70°W	0.43×0.52	0.48×0.34	0.38	D?1	縄文1点			102	41
24-6号土坑	24E-12	N-90°	1.22×1.10	0.90×0.63	0.19	D2				103	41
24-7号土坑	24E-16	N-79°W	1.25×0.91	0.99×0.34	0.30	A5	縄文5点 石器1点			102	41
24-8号土坑	24E-19	N-78°W	1.52×0.91	0.98×0.28	(0.36)	B2				102	41
24-9号土坑	24F-12	N-62°E	0.87×0.69	0.58×0.43	0.31	B3				104	41
24-10号土坑	24F-12	N-76°W	1.30×1.17	0.92×0.92	0.67	A2	縄文2点			103	42
24-11号土坑	24F-15	N-90°	0.59×0.48	0.55×0.42	0.35	E3				104	42
24-12号土坑	24F-12	N-0°	0.78×0.76	0.66×0.68	0.43	A1	縄文2点			104	42
24-13号土坑	24F-17	N-13°E	0.54×0.49	0.24×0.20	0.52	B5				104	42
24-14号土坑	24F-19	N-15°W	0.82×0.70	0.55×0.28	0.25	B3				104	42
24-15号土坑	24G-14	N-0°	1.54×1.24	1.34×1.10	0.3	E2	縄文2点 石器1点	24-1住(新)		105	42
24-16号土坑	24F-14	N-29°W	0.68×0.54	0.41×0.20	0.2	E5				104	42

YD4-02 下田遺跡

住居

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長辺×短辺)	上面規模	高さ	形状	出土遺物	重複	備考	図 版	P L
44-1号住居	44Y-2	南北軸	7.76×(6.30)	(30.35)			陶磁器 石器 鉄器等			112-113 114-115 116	43-44

塼

(単位m²)

遺構番号	位置	走向	畝幅	畝高	—	—	出土遺物	重複	備考	図 版	P L
45-1号塼	45区	東西	0.47	0.04						117-118 119	45
45-2号塼	45区	東西	0.42	0.06			土人形8点 石白1点 銅線1点等		土人形類 土地点は 把握か?	117-118 119	43-45

YD4-05 花畑遺跡

住居

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長辺×短辺)	床面積	壁高	形状	出土遺物	重複	備考	図 版	P L
91-1号住居	91C-25	N-110°-E	4.16×(3.52)	(13.75)	0.6	隅丸方形	須恵器5点 土師器1点 石器1点			123-124	49-50
91-2号住居	91F-25	—	(2.20)×(1.30)	(7.31)	0.1	隅丸方形	土師器片16点			125	50
100-1号住居	100-25	N-48°-E	3.42×(2.36)	(6.27)	0.4	隅丸方形	須恵器2点 土師器1点			126-127	51

土坑

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長辺×短辺)	坑底面積 (長辺×短辺)	高さ	形状	出土遺物	重複	備考	図 版	P L
1-1号土坑	1A-5	N-0°	1.19×0.81	0.70×0.48	0.5	E5				155	65
1-2号土坑	1C-19	N-31°-E	1.81×0.87	1.13×0.62	0.83	D1			陥し穴	130	52
1-3号土坑	1C-18	N-39°-E	1.33×1.10	1.05×0.95	0.67	E5				155	65
1-4号土坑	1C-15	N-31°-E	1.73×1.36	0.48×0.46	0.32	B2			1-2高(断?)	156	66
1-5号土坑	1F-15	N-43°-W	1.56×1.26	0.70×0.54	0.45	B2			風筒木?	156	65
1-6号土坑	1A-14	N-50°-E	1.90×1.46	0.48×0.35	1.14	B2			陥し穴	130	52
1-7号土坑	1D-17	N-72°-E	(0.96)×(0.88)	(0.58)×(0.52)	0.29	A2				156	66
10-1号土坑	10W-22	N-0°	1.14×1.14	0.75×0.74	0.33	A2				158	66
10-2号土坑	10W-23	N-78°-E	(1.71)×1.84	(1.20)×0.78	0.91	D2			陥し穴?	158	66
10-3号土坑	10W-23	N-85°-W	1.82×1.11	1.62×0.69	1.67	D2			陥し穴	136	52
10-4号土坑	10X-24	N-48°-E	1.88×1.30	1.45×0.35	1.72	B2			陥し穴	131	52
10-5号土坑	10Y-25	N-80°-W	1.50×0.86	1.15×0.25	1.47	D2	縄文土器片3点。		陥し穴	131-132	52
10-7号土坑	10Y-2	N-85°-E	(0.95)×0.85	(0.72)×0.53	1.03	D1			陥し穴	136	53
10-8号土坑	10W-5	N-6°-E	1.51×1.08	0.97×0.66	0.94	D1			陥し穴	136	53
10-9号土坑	10U-6	N-80°-E	1.94×0.91	0.19×0.10	0.23	C5				158	66
10-10号土坑	10X-3	N-23°-W	(1.94)×1.35	1.90×(0.67)	0.43	A?3				158	66
10-11号土坑	10Y-7	N-85°-E	1.50×0.84	1.35×0.65	0.4	B1			陥し穴	137	53
10-12号土坑	10P-18	N-75°-E	1.86×1.30	1.50×0.34	1.38	B2			陥し穴	137	53
10-13号土坑	10O-15	N-22°-E	1.28×1.06	0.63×0.52	0.53	A2				159	66
10-14号土坑	10M-16	N-65°-E	2.36×1.79	1.42×0.45	1.55	B2			陥し穴	132	53
10-15号土坑	10K-16	N-50°-W	0.72×0.70	0.51×0.48	0.5	A1				156	66
10-16号土坑	10K-16	N-57°-E	1.98×0.88	0.75×0.68	0.51	A1				159	67
10-17号土坑	10I-13	N-68°-E	2.03×(1.32)	1.56×0.34	1.97	B1			陥し穴	137	54
10-18号土坑	10K-12	N-0°	0.64×0.43	0.35×0.23	0.23	B3				159	67
10-20号土坑	10T-15	N-68°-W	1.45×0.76	1.37×0.56	1.67	D2			陥し穴	138	54
10-22号土坑	10N-13	N-25°-W	1.62×0.86	0.41×0.39	0.63	D1			陥し穴	138	54
10-23号土坑	10S-9	N-54°-E	1.99×1.73	1.21×0.52	1.31	D2			陥し穴	138	54
10-24号土坑	10S-6	N-45°-E	1.19×1.06	1.07×0.78	0.2	B5				159	67
10-25号土坑	10Q-6	N-15°-E	1.81×1.04	0.88×0.59	0.71	C2			陥し穴?	132	54
10-26号土坑	10N-10	N-19°-W	1.96×0.85	0.96×0.70	0.63	A1				159	67
10-27号土坑	10N-10	N-11°-E	1.50×1.17	1.24×0.1	0.69	A2				159	67
10-28号土坑	10O-5	N-16°-E	1.70×1.61	0.75×0.40	1.1	D1			陥し穴	133	55
10-29号土坑	10K-6	N-42°-W	1.62×0.83	1.49×0.63	0.42	D2			陥し穴?	139	55
10-30号土坑	10M-4	N-29°-E	1.30×0.96	1.19×0.10	0.28	A2				160	67
10-31号土坑	10I-4	N-48°-E	1.24×0.83	0.79×0.66	0.5	B3				157	67
10-32号土坑	10I-3	N-75°-W	1.54×1.34	0.86×0.60	0.98	A2				157	68

付圖 4

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長×幅)	底面規模 (長×幅)	深さ	形状	出土遺物	重複	備考	国 版	P. L
10-33号土坑	10E-2	N-90°	1.50×1.43	1.10×0.96	0.67	A2				160	68
10-34号土坑	10T-16	N-74°W	1.70×1.33	1.13×1.01	0.43	B2				157	68
10-35号土坑	10T-16	N-82°W	1.63×1.58	1.30×0.92	1.26	E II				134	55
10-36号土坑	10E-16	N-31°W	2.06×1.86	1.35×0.70	1.37	B II			掘し穴	134-135	55
10-37号土坑	10E-19	N-62°W	1.22×0.70	1.06×0.54	0.18	D3				160	68
10-38号土坑	10T-20	N-66°E	1.67×0.57	1.57×0.49	0.48	D I			掘し穴	139	56
10-39号土坑	10E-30	N-28°W	1.73×1.65	1.55×0.41	0.87	D II			掘し穴	135	56
10-40号土坑	10T-21	N-46°E	1.80×0.89	1.55×0.40	1.34	D III	縄文土器片 2点		掘し穴	135	56
10-41号土坑	10E-16	N-14°W	2.05×1.22	1.60×0.63	1.34	B II			掘し穴	139	56
10-42号土坑	10E-18	N-66°E	1.16×1.00	0.80×0.72	A-					160	68
10-43号土坑	10E-17	N-17°E	1.18×1.17	0.87×0.86	A-					160	68
10-44号土坑	10E-3	N-47°W	0.95×0.83	0.76×0.74	0.21	A II			掘し穴	139	57
10-45号土坑	10E-1	N-72°W	1.87×1.00	1.33×0.62	1.2	D III			掘し穴	140	57
10-46号土坑	10E-1	N-68°E	0.88×0.72	0.88×0.71	0.21	A2				160	69
10-47号土坑	10Y-8	N-43°E	0.57×0.42	0.27×0.16	0.3	A3				160	69
11-1号土坑	11A-2	N-67°E	2.23×1.59	1.59×0.35	1.87	B III	弥生期と思われる土器片 2点		掘し穴?	140-141	57
11-2号土坑	11B-4	N-53°E	(1.83)×(0.72)	(0.60)×(0.53)	0.74	-			掘し穴?	141	
11-3号土坑	11B-3	N-81°E	2.03×(0.92)	1.52×0.53	1.78	B III			掘し穴?	141	57
11-4号土坑	11D-1	N-1°E	(2.00)×1.97	(1.70)×1.66	0.48	A3				161	69
20-1号土坑	20X-1	N-30°E	0.98×0.96	0.62×0.60	0.52	A4				161	69
20-2号土坑	20Y-1	N-89°E	0.74×0.72	0.62×0.60	0.23	A2				161	69
81-1号土坑	91E-24	N-22°W	2.00×0.58	1.80×0.50	0.36	D I			掘し穴	142	57
2-2号土坑	91E-25	N-52°W	1.80×0.80	1.44×0.50	0.87	D II			掘し穴	142	58
100-1号土坑	100D-23	N-82°W	1.70×1.33	0.95×0.54	1.4	E III	土師器片1点		掘し穴	152	58
100-2号土坑	100F-25	N-16°W	1.31×0.86	1.04×0.58	1.14	B III			掘し穴	152	58
100-3号土坑	100F-24	N-47°E	1.36×1.28	0.54×0.41	0.56	A4				162	69
100-4号土坑	100E-24	N-35°W	2.22×1.70	1.44×0.82	1.53	B III			掘し穴	143	58
100-5号土坑	100E-23	N-41°W	1.72×1.05	1.13×0.28	1.55	B III			掘し穴	144	59
100-6号土坑	100E-23	N-90°	1.24×1.12	1.00×0.86	0.31	A3				163	70
100-7号土坑	100E-22	N-50°W	1.44×1.36	1.16×1.00	0.47	A2				164	70
100-8号土坑	100E-22	N-25°W	1.48×1.42	1.06×1.00	0.78	A2				162	70
100-9号土坑	100E-21	N-90°	1.28×1.08	0.96×0.90	0.43	A3				164	70
100-10号土坑	100E-23	N-73°W	1.84×1.00	1.52×0.40	1.28	D III			掘し穴	152	59
100-11号土坑	100E-22	N-48°W	1.92×1.34	1.50×0.48	1.62	B III			掘し穴	153	59
100-12号土坑	100E-23	N-59°W	2.00×1.48	1.32×0.78	1.38	B III			掘し穴	154	59
100-13号土坑	100E-24	N-8°W	1.76×1.24	1.34×0.68	1.3	D II			掘し穴	144-145	60
100-14号土坑	100E-25	N-0°	1.61×1.06	1.37×0.62	1.34	D III			掘し穴	145	60
100-15号土坑	100E-24	N-70°W	1.77×1.00	1.33×0.32	1.22	D III			掘し穴	146	60
100-16号土坑	100E-23	N-62°W	1.80×0.96	1.76×0.66	0.86	D I			掘し穴	153	60
100-17号土坑	100T-18	N-22°W	1.74×0.77	0.86×0.51	0.7	D I			掘し穴	154	61
100-18号土坑	100E-19	N-17°E	1.42×0.91	1.09×0.45	1.05	B III			掘し穴	153	61
100-19号土坑	100Y-22	N-73°E	1.55×0.75	1.36×0.60	0.83	D I			掘し穴	155	61
100-20号土坑	100P-20	N-78°W	(1.72)×1.63	0.67×0.42	1.19	A I		100-3土(新)	掘し穴	146	61
100-21号土坑	100P-21	N-42°W	1.07×0.80	0.72×0.61	0.3	C2				162	71
100-22号土坑	100M-31	N-34°W	0.95×0.77	0.60×0.50	0.47	B4				163	71
100-23号土坑	100E-22	N-14°W	1.57×1.07	1.36×0.70	0.64	B III			掘し穴	147	62
100-24号土坑	100M-20	N-56°E	0.60×0.48	0.54×0.40	0.34	A2				163	71
100-25号土坑	100E-21	N-9°E	0.84×0.74	0.60×0.50	0.32	A4				164	71
100-26号土坑	100M-23	N-77°E	1.30×1.28	1.00×0.84	0.43	A3				164	60-71
100-27号土坑	100M-22	N-14°W	1.60×1.05	1.36×0.66	0.65	B I			掘し穴	148-149	71
100-28号土坑	100E-22	N-77°W	1.76×1.03	1.28×0.44	0.96	D II			掘し穴	155	60-71
100-29号土坑	100M-19	N-0°	1.63×0.74	0.40×0.32	0.88	D III			掘し穴	150	61
100-30号土坑	100E-22	N-30°W	1.40×0.64	1.22×0.46	1.04	D III			掘し穴	154	64
100-31号土坑	100M-23	N-82°W	0.40×0.24	0.28×0.16	0.16	D3			掘し穴	163	72
100-32号土坑	100M-23	N-51°E	1.40×1.32	1.26×1.26	0.65	A2		100-21土(古)	掘し穴?	163	72
100-33号土坑	100P-19	N-74°W	2.12×1.50	1.50×0.56	1.29	B III		100-33土(古)	掘し穴	151	65

溝

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模	底面規模	深さ	断面形状	出土遺物	重現	備考	図 版	P. L.
1-1号溝	1C-12 付近	N-37°-W	0.34×0.66	0.06×0.34	0.10~0.20			1-2溝(新)		165	72
1-2号溝	1A-9付近	N-25°-W N-40°-W	0.20×1.46	0.06×0.49	0.10~0.20			1-1溝, 1-4土(古)		165	
100-1号溝	100M-18 付近	N-81°-W	0.90×0.30	0.58×0.10	0.15~0.30					166	72

YD5-02 尾根遺跡

堀跡

(単位m²)

遺構番号	位置	走向	幅	深さ	—	—	出土遺物	重現	備考	図 版	P. L.
63-1号堀	53V-25	東西	0.55	0.08	—	—	陶器2点			187	76-77

溝

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	底面規模 (長軸×短軸)	深さ	断面形状	出土遺物	重現	備考	図 版	P. L.
1号溝	53V-25	N-30°~ 70°-W	3.20×1.90	0.80×0.30	0.75~0.95		土製門輪1点 陶器1点 石器1点		63-1溝 内部施設	187	76-77

円形遺構

(単位m²)

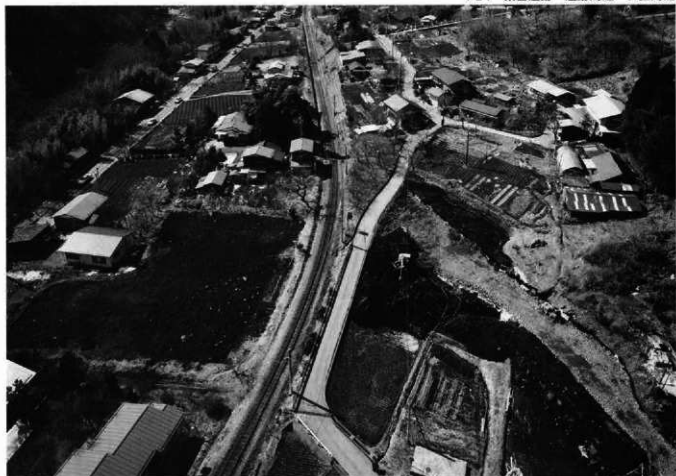
遺構番号	位置	方位	上面規模 (長軸×短軸)	面積	深さ	形状	出土遺物	重現	備考	図 版	P. L.
1号円形遺構	63V-4	N-30°-W	(1.85)×1.77	2.73	0.11	不整形			田舎印輪 出63-1 堀内部施設	187	76-77

石基

(単位m²)

遺構番号	位置	方位	残存長	底面規模 (長軸×短軸)	高さ	形状	出土遺物	重現	備考	図 版	P. L.
1号石基	63V-4	N-85°-W	7.8	—	0.38	—			63-1堀 内部施設	187	76-77

写 真 图 版



遺跡周辺



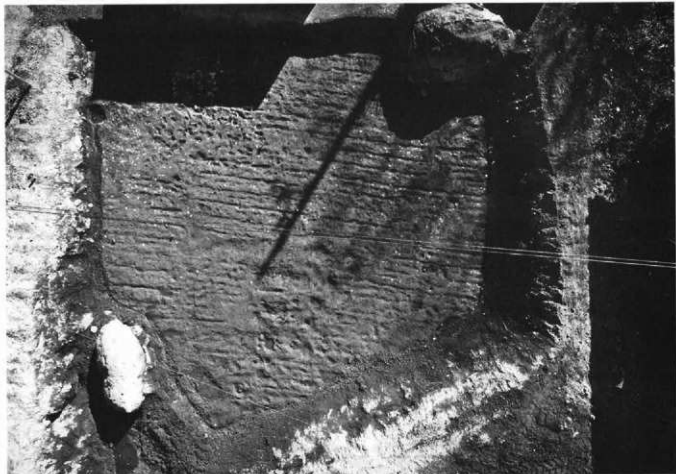
51区周辺



51-1号畑全景



41-1号畑全景



41-1号畑（南東部）全景



41-1号畑（北西部）全景

PL 4 石畑遺跡 全景・発掘調査前全景



全景（東から）



発掘調査前全景



94-1号畑全景



84-1号土坑全景 (南から)



84-2号土坑全景 (南から)



84-3号土坑全景 (南から)



84-4号土坑全景 (南から)



84-5号土坑全景(南から)



84-6号土坑全景(南から)



84-7号土坑全景(南から)



94-1号土坑全景(南西から)



84-1号谷遺物出土状況



遺跡全景（北東から）



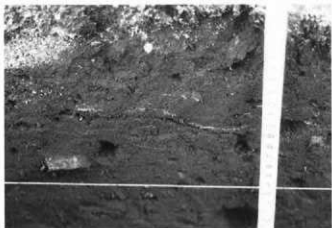
遺跡全景



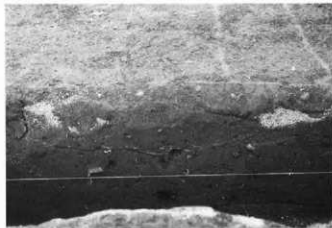
63-1・2号畑全景



63-2号畑全景



63-1号畑狀断面



63-2号畑狀断面



64-1号畑全景



64-1号畑狀断面



63-1号土坑遺物出土状況



遺跡周辺



6区全景



16区全景



17区全景



16-1号住居全景(北西から)



16-1号住居掘り方全景(北西から)



16-1号住居壘全景(北西から)



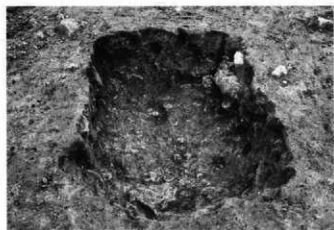
16-1号住居掘り方全景(北西から)



16-1号住居遺物出土状況



6-2号土坑全景 (北から)



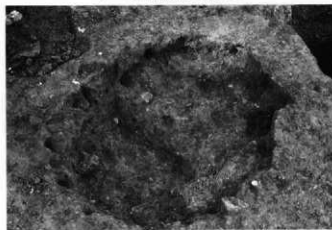
6-2号土坑空照 (北から)



6-1号土坑全景 (北から)



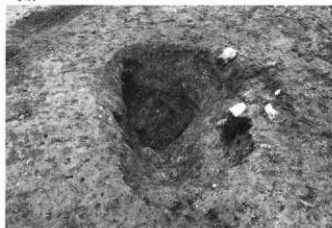
6-3号土坑全景 (北から)



6-4号土坑全景 (東から)



6-5号土坑全景(東から)



16-1号土坑全景(南から)



16-2号土坑全景(西から)



16-2号土坑完掘(西から)



16-3号土坑全景(西から)



17-1号溝全景(北東から)



17-1号溝全景(南から)



17-1号溝全景



36区・46区 1次調査全景



46区 2次調査全景



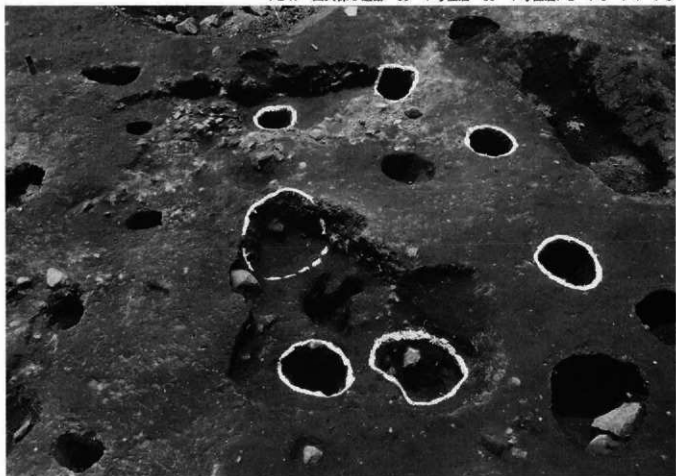
47区全景



46区基本土層 (雨盤)



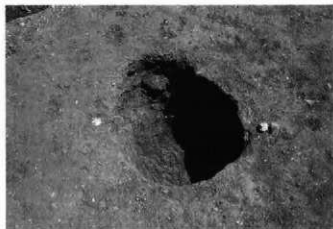
47区基本土層



36-1号住居掘り方全景（北から）



36-1号住居P2（西から）



36-1号住居P3（南から）



36-1号住居P4（南から）



36-1号住居P5（南から）



46-1号住居全景(北から)



46-1号住居掘り方全景(北から)



46-1号住居附近掘(北から)



46-1号住居埋め戻し出土状況(北から)



46-1号住居埋め戻し出土状況(北から)



46-2号住居全景（北から）



46-2号住居掘り方全景（北から）



46-2号住居石全景（東から）



46-2号住居切セクション（南から）



46-2号住居掘り方全景（東から）



46-3号住居東側全景（北から）



46-3号住居東側近接（北から）



46-3号住居西側全景（北から）



46-3号住居東側掘り方全景（北から）



46-3号住居炭化物出土状況（北東から）



46-5号住居全景（南から）



46-5号住居掘り方全景（西から）



46-5号住居掘り状況（西から）



46-5号住居全景（西から）



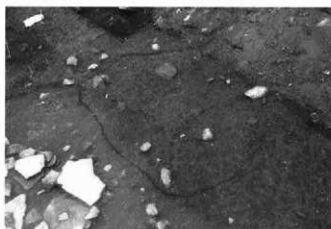
46-5号住居掘り方全景（北から）



46-6号住居全景（西から）



46-6号住居敷石近接（東から）



46-6号住居炭化物出土状況（西から）



46-1号礎石建物全景（東から）



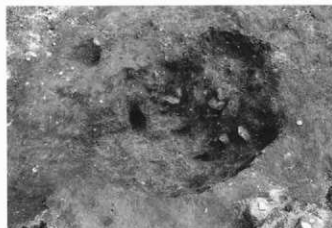
46-1号礎石建物全景（南西から）



36-1号土坑全景(東から)



36-2号土坑全景(北から)



36-3号土坑全景(北から)



36-4号土坑セクション(北から)



36-6号土坑全景(南から)



36-8号土坑全景(北から)



36-4号ピット全景(北から)



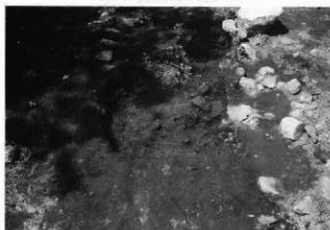
36-8号ピット全景(北から)



46-1号土坑全景(北から)



46-2号土坑全景(北から)



46-4号土坑全景(北から)



46-5号土坑セクション(北から)



46-8号土坑全景(北から)



46-8号土坑遺物出土状況



46-9号土坑セクション(北から)



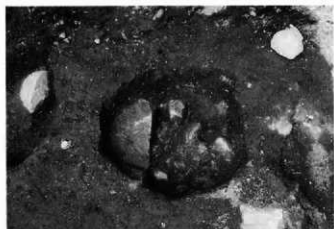
46-9号・10号土坑全景(北から)



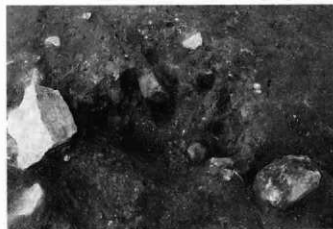
46-11号土坑全景 (西から)



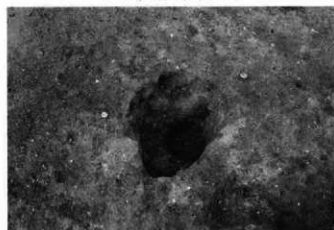
46-12号土坑全景 (南から)



46-14号土坑全景 (南から)



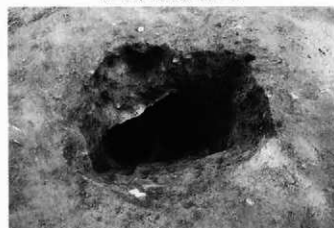
46-15号土坑全景 (南から)



46-17号土坑全景 (南から)



46-18号土坑全景 (北から)



46-2号ピット全景 (西から)



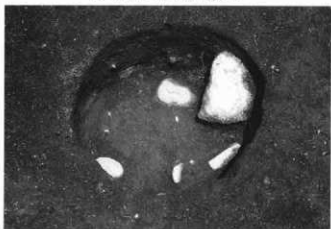
46-3号ピット全景 (南から)



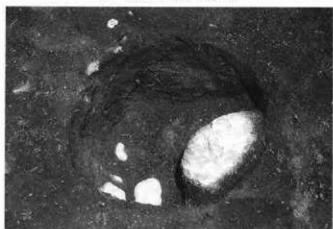
46-5号ピット全景 (南から)



47-1号土坑全景 (南から)



47-2号土坑全景 (南から)



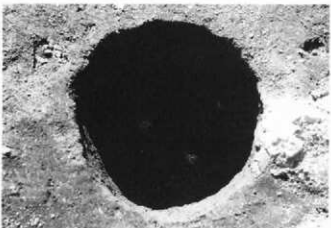
47-3号土坑全景 (南から)



47-4号土坑全景 (東から)



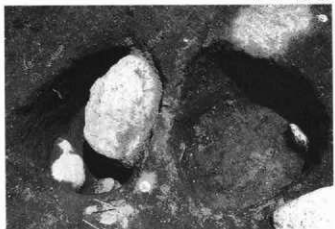
47-5号土坑全景 (西から)



47-7号土坑全景 (東から)



47-8号土坑全景 (東から)



47-9号・10号土坑全景(西から)



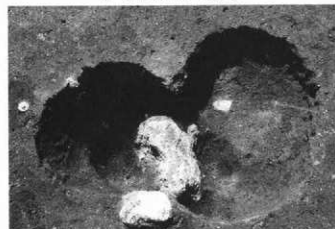
47-11号土坑全景(東から)



47-12号土坑全景(北から)



47-13号土坑全景(北から)



47-14号・15号土坑全景(東から)



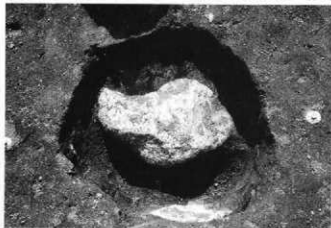
47-16号土坑全景(東から)



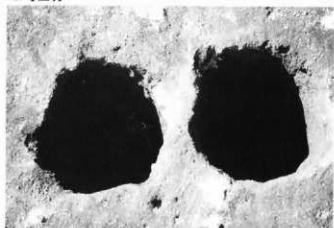
47-17号土坑全景(東から)



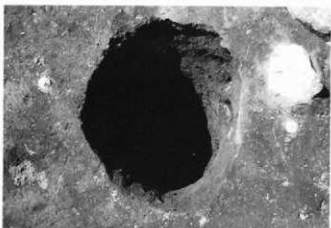
47-18号土坑全景(東から)



47-19号土坑全景 (東から)



47-20号・21号土坑全景 (南から)



47-22号土坑全景 (東から)



47-23号土坑全景 (東から)



47-24号土坑全景 (南から)



47-25号土坑全景 (南西から)



47-26号土坑全景 (北から)



47-27号土坑全景 (南から)



47-28号土坑全景 (南から)



47-29号土坑全景 (南から)



47-30号土坑全景 (北から)



47-31号土坑全景 (東から)



47-32号土坑全景 (西から)



47-33号土坑全景 (南西から)



47-34号土坑全景 (東から)



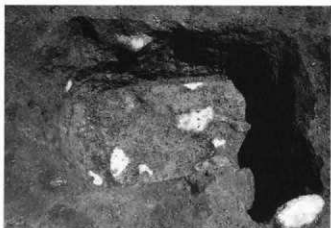
47-35号土坑全景 (北から)



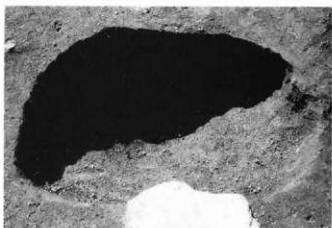
47-36号土坑全景(西から)



47-37号土坑全景(西から)



47-39号土坑全景(南から)



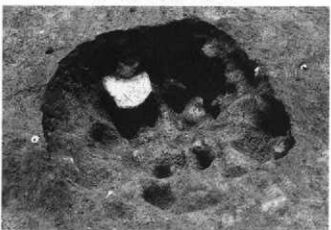
47-40号土坑全景(東から)



47-41号土坑全景(東から)



47-42号土坑全景(西から)



47-43号土坑全景(西から)



47-44号土坑全景(北から)



47-45号土坑全景 (北から)



47-46号土坑全景 (東から)



47-47号土坑全景 (西から)



47-48号土坑全景 (西から)



47-49号土坑全景 (北から)



47-50号土坑全景 (南東から)



47-51号土坑全景 (西から)



47-52号土坑全景 (東から)



47-53号土坑全景 (南から)



47-57号土坑全景 (北から)



47-58・59号土坑全景 (東から)



47-60号土坑全景 (北から)



47-61号土坑全景 (東から)



47-62号土坑全景 (北から)



47-64号土坑全景 (東から)



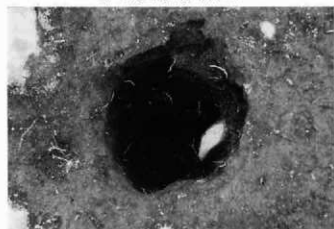
47-65号土坑全景 (北から)



47-67号土坑全景 (南から)



47-68号土坑全景 (北から)



47-69号土坑全景 (北から)



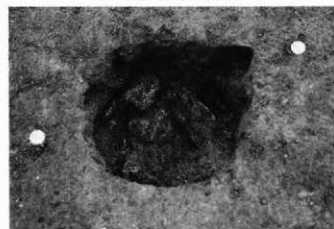
47-70号土坑全景 (北から)



47-71号土坑全景 (北から)



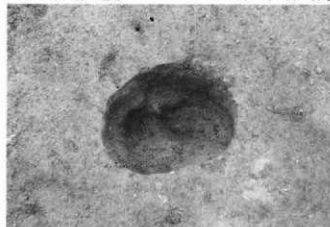
47-72号土坑全景 (北から)



47-73号土坑全景 (北から)



47-74号土坑全景 (南から)



47-75号土坑全景 (北から)



47-76号土坑全景 (北から)



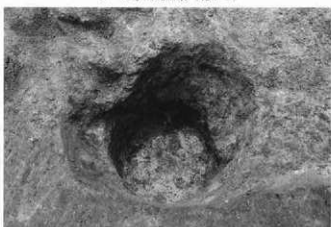
47-77号土坑全景 (北から)



47-78号土坑全景 (北から)



47-79号土坑全景 (北から)



47-80号土坑全景 (北から)



47-83号土坑全景 (東から)



47-83号土坑セクション (南から)



46-1・2号溝全景 (北西から)



46-1号・2号溝全景 (南から)



46-2号溝セクション (南から)



46-3・4号溝全景 (東から)



46-3号溝セクション (東から)



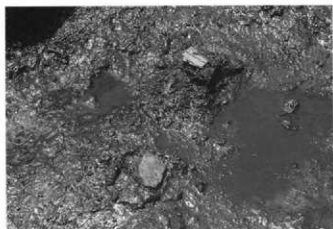
47区水場遺構全景 (東から)



47区水場遺構全景 (北東から)



47区水場遺構全景（東から）



47区水場遺構2号土坑遺物出土状況



47区水場遺構1号土坑全景（東から）



47区水場遺構遺物出土状況



47区水場遺構湧水状況



46区剥片廃棄場全景（北から）



46区剥片廃棄場全景（北東から）



46区剥片廃棄場全景V-3（北から）



46区剥片廃棄場全景（北から）



46区剥片廃棄場全景（北から）



46区剥片廃棄場全景（西から）



36区調査前状況



46区調査前状況



遺跡全景 (東から)



遺跡全景



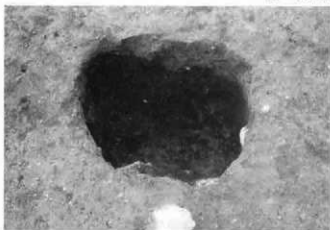
23区全景（東から）



23区基本土層（北壁）



24-1号住居全景（東から）



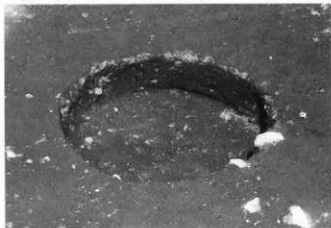
23-1号土坑全景（南東から）



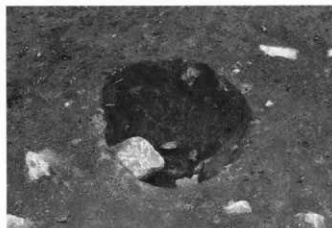
24-1号土坑全景（南から）



24-2号土坑全景(南から)



24-3号土坑全景(南から)



24-4号土坑全景(南から)



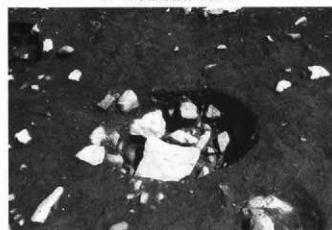
24-5号土坑全景(南から)



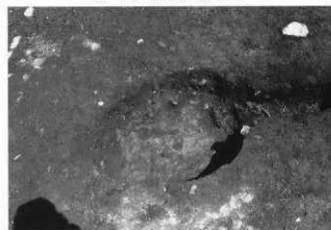
24-6号土坑全景(南から)



24-7号土坑全景(南西から)



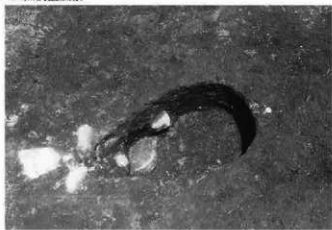
24-8号土坑全景(南から)



24-9号土坑全景(南から)



24-10号土坑全景 (北から)



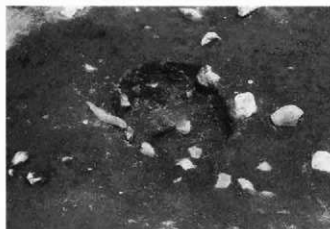
24-11号土坑全景 (南から)



24-12号土坑全景 (南から)



24-13号土坑全景 (南から)



24-14号土坑全景 (南から)



24-15号土坑全景 (南から)



24-16号土坑セクション (南から)



24区調査風景



44-1号住居全景 (北から)



調査区周辺 (東から)



44-1号住居・2号畑全景 (西から)



44-1号住居基礎石列 (東から)



44-1号住居蔵全景 (東から)



44-1号住居1号圓炉裏全景（西から）



44-1号住居1号圓炉裏出土状況（北から）



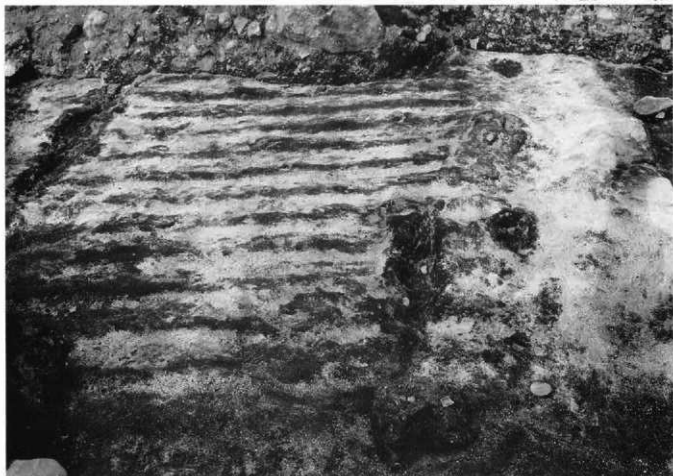
44-1号住居1号圓炉裏セクション



44-1号住居1号圓炉裏掘り方全景（北から）



44-1号住居2号圓炉裏セクション



45-2号畑全景（南から）



45区畑境の石列（北から）



45区畑境の石列近接（東から）



45-2号畑銅鏡出土状況



45-1号畑全景（北から）



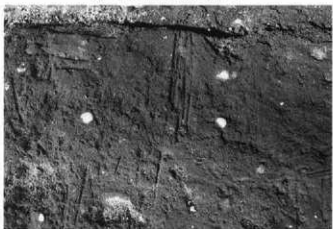
45-1号畑西側全景（東から）



45-1号畑南側全景（北から）



45-1号畑西側近接（東から）



45-1号畑植物遺体出土状況



道路全景



1区全景 (南から)



1区全景 (北から)



10区全景 (南から)



10区全景 (北から)



10区全景（北から）



10区全景（北西から）



100区全景（北西から）



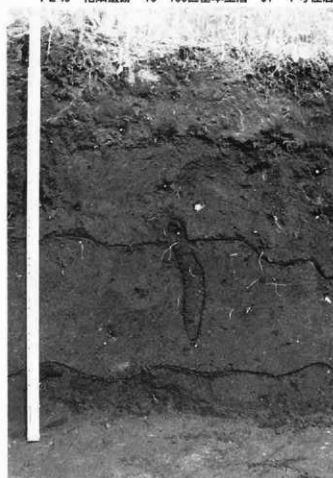
100区全景（南東から）



10区全景



10区基本土層



100区基本土層



91-1号住居 (西から)



91-1号住居掘り方全景(北から)



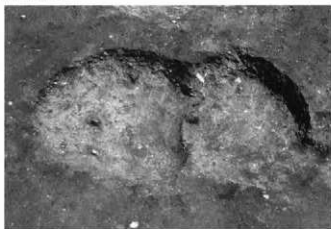
91-1号住居竈遺物出土状況(北から)



91-2号住居全景(北から)



91-2号住居掘り方全景(北から)



91-2号住居床下土坑(南から)



100-1号住居全景（南西から）



100-1号住居竈検出状況（南西から）



100-1号住居竈全景（南西から）



100-1号住居竈周辺（南西から）



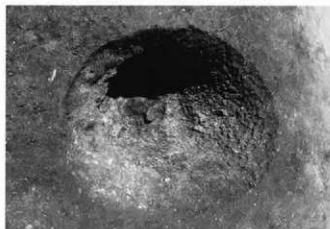
100-1号住居竈掘り方全景（南西から）



1-2号土坑（陥し穴）全景（西から）



10-4号土坑（陥し穴）全景（南から）



1-6号土坑（陥し穴）全景（西から）



1-6号土坑（陥し穴）セクション（南西から）



10-3号土坑（陥し穴）全景（南から）



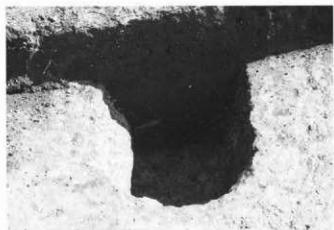
10-3号土坑（陥し穴）セクション（西から）



10-5号土坑（陥し穴）全景（南から）



10-5号土坑（陥し穴）セクション（西から）



10-7号土坑 (陥し穴) 全景 (西から)



10-11号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



10-8号土坑 (陥し穴) 全景 (北東から)



10-8号土坑 (陥し穴) セクション (南から)



10-12号土坑 (陥し穴) 全景 (西から)



10-12号土坑 (陥し穴) セクション (南から)



10-14号土坑 (陥し穴) 全景 (北から)



10-14号土坑 (陥し穴) セクション (西から)



10-17号土坑（陥し穴）全景（北から）



10-22号土坑（陥し穴）全景（南から）



10-20号土坑（陥し穴）全景（南から）



10-20号土坑（陥し穴）セクション（南から）



10-23号土坑（陥し穴）全景（西から）



10-23号土坑（陥し穴）セクション（南から）



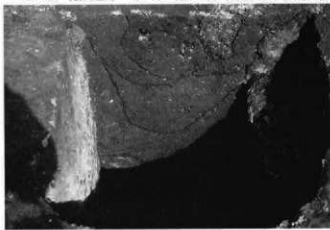
10-25号土坑（陥し穴）全景（北から）



10-25号土坑（陥し穴）セクション（南から）



10-28号土坑 (隔し穴) 全景 (南から)



10-28号土坑 (隔し穴) セクション (南から)



10-29号土坑 (隔し穴) 全景 (南東から)



10-29号土坑 (隔し穴) セクション (西から)



10-35号土坑 (隔し穴) 全景 (西から)



10-35号土坑 (隔し穴) セクション (東から)



10-36号土坑 (隔し穴) 全景 (東から)



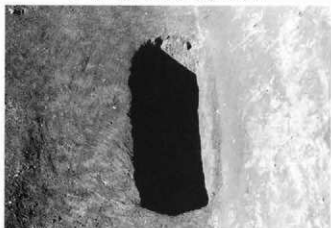
10-36号土坑 (隔し穴) セクション (南から)



10-38号土坑（陥し穴）全景（西から）



10-38号土坑（陥し穴）セクション（西から）



10-39号土坑（陥し穴）全景（南から）



10-39号土坑（陥し穴）セクション（西から）



10-40号土坑（陥し穴）全景（南から）



10-40号土坑（陥し穴）セクション（南西から）



10-41号土坑（陥し穴）全景（東から）



10-41号土坑（陥し穴）セクション（南から）



10-44号土坑（隠し穴）全景（南から）



10-45号土坑（隠し穴）全景（北から）



10-45号土坑（隠し穴）セクション（東から）



11-1号土坑（隠し穴）全景（北から）



11-1号土坑（隠し穴）セクション（西から）



11-3号土坑（隠し穴）セクション（北東から）



91-1号土坑（隠し穴）全景（北から）



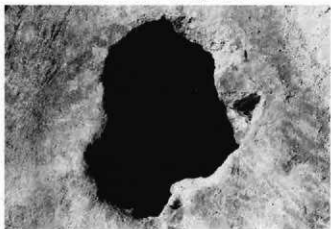
91-1号土坑（隠し穴）セクション（南から）



91-2号土坑（陥し穴）全景（北東から）



91-2号土坑（陥し穴）セクション（南東から）



100-1号土坑（陥し穴）全景（東から）



100-1号土坑（陥し穴）セクション（東から）



100-2号土坑（陥し穴）全景（西から）



100-2号土坑（陥し穴）セクション（南から）



100-4号土坑（陥し穴）全景（南から）



100-4号土坑（陥し穴）セクション（南東から）



100-5号土坑 (陥し穴) 全景 (南東から)



100-5号土坑 (陥し穴) セクション (南東から)



100-10号土坑 (陥し穴) 全景 (南東から)



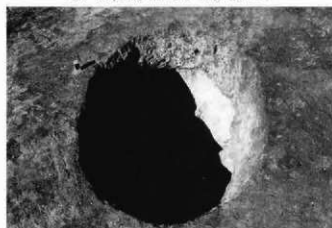
100-10号土坑 (陥し穴) セクション (南東から)



100-11号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



100-11号土坑 (陥し穴) セクション (南から)



100-12号土坑 (陥し穴) 全景 (南東から)



100-12号土坑 (陥し穴) セクション (南東から)

PL 60 花畑遺跡 100-13・14・15・16号土坑 (陥し穴)



100-13号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



100-13号土坑 (陥し穴) セクション (南から)



100-14号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



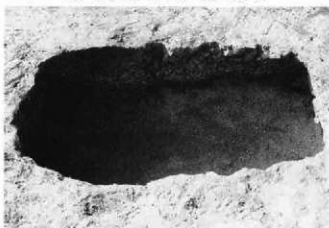
100-14号土坑 (陥し穴) セクション (南から)



100-15号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



100-15号土坑 (陥し穴) セクション (東から)



100-16号土坑 (陥し穴) 全景 (北東から)



100-16号土坑 (陥し穴) セクション (南東から)



100-17号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



100-17号土坑 (陥し穴) セクション (北から)



100-18号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



100-18号土坑 (陥し穴) セクション (北から)



100-19号土坑 (陥し穴) 全景 (西から)



100-19号土坑 (陥し穴) セクション (東から)



100-20号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



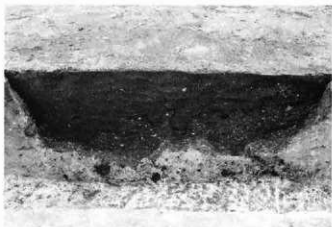
100-20号土坑 (陥し穴) セクション (東から)



100-23号土坑（隠し穴）全景（南から）



100-23号土坑（隠し穴）全景（西から）



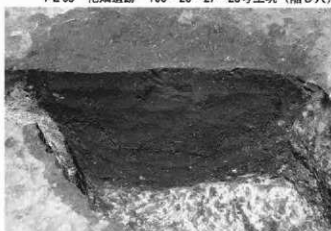
100-23号土坑（隠し穴）セクション（西から）



100-27号土坑（隠し穴）全景（東から）



100-26号・27号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



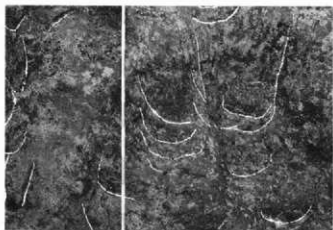
100-27号土坑 (陥し穴) セクション (西から)



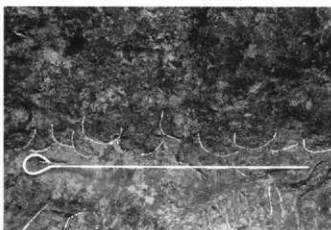
100-27号土坑 (陥し穴) 工具痕 (南から)



100-27号土坑 (陥し穴) 工具痕 (東から)



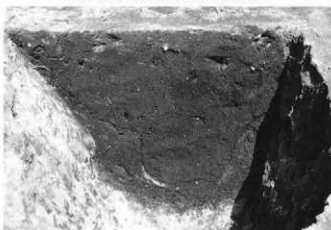
100-27号土坑 (陥し穴) 工具痕近接



100-27号土坑 (陥し穴) 工具痕近接



100-28号土坑 (陥し穴) 全景 (南から)



100-28号土坑 (陥し穴) セクション (西から)



100-29号土坑（陥し穴）全景（南から）



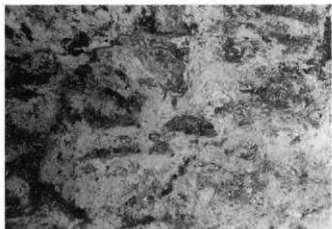
100-29号土坑（陥し穴）セクション（北から）



100-29号土坑（陥し穴）工具痕近接（南から）



100-29号土坑（陥し穴）工具痕近接（南から）



100-29号土坑（陥し穴）工具痕近接（南から）



100-30号土坑（陥し穴）全景（南から）



100-30号土坑（陥し穴）セクション（南から）



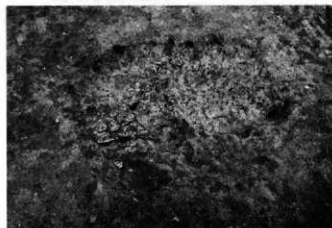
100-33号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



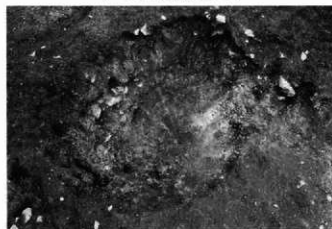
100-33号土坑 (陥し穴) セクション (東から)



1-1号土坑全景 (南から)



1-3号土坑全景 (南東から)



1-4号土坑全景 (南から)



1-4号土坑セクション (南東から)



1-5号土坑全景 (南から)



1-5号土坑セクション (南東から)



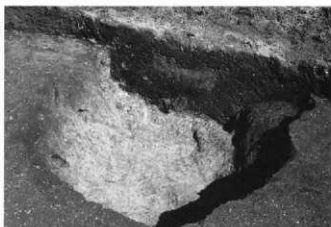
1-7号土坑全景 (南から)



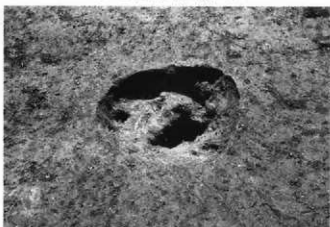
1-7号土坑セクション (西から)



10-1号土坑全景 (南から)



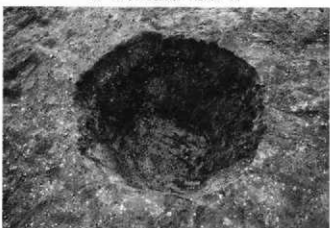
10-2号土坑全景 (南から)



10-9号土坑全景 (北西から)



10-10号土坑全景 (東から)



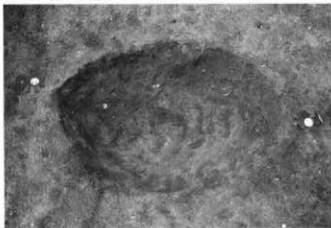
10-13号土坑全景 (東から)



10-15号土坑全景 (南から)



10-16号土坑全景 (南から)



10-18号土坑全景 (南から)



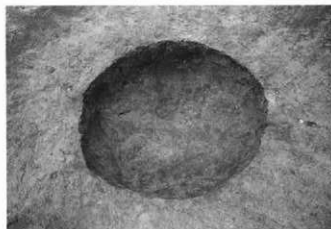
10-24号土坑セクション (南から)



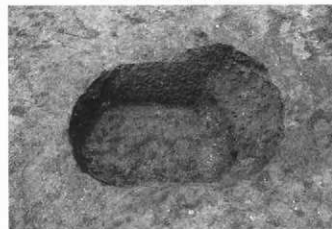
10-26号土坑全景 (西から)



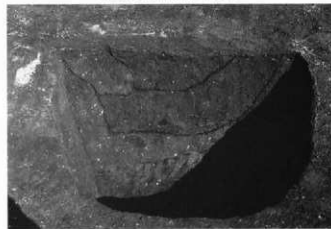
10-27号土坑全景 (南から)



10-30号土坑全景 (南から)



10-31号土坑全景 (南から)



10-31号土坑セクション (南から)



10-32号土坑全景 (東から)



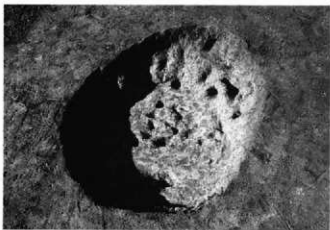
10-32号土坑セクション (西から)



10-33号土坑全景 (西から)



10-33号土坑セクション (南から)



10-34号土坑全景 (東から)



10-37号土坑全景 (東から)



10-42号土坑全景 (南から)



10-43号土坑全景 (南から)



10-46号土坑全景 (南から)



10-46号土坑セクション (南から)



10-47号土坑全景 (南から)



11-4号土坑セクション (南から)



20-1号土坑全景 (南から)



20-2号土坑全景 (南から)



100-3号土坑全景 (南から)



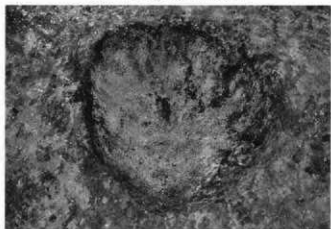
100-3号土坑セクション (南東から)



100-6号土坑全景 (南東から)



100-6号土坑セクション (南から)



100-7号土坑全景 (南から)



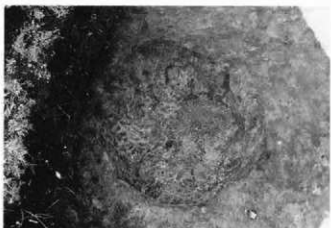
100-7号土坑セクション (南から)



100-8号土坑全景 (南東から)



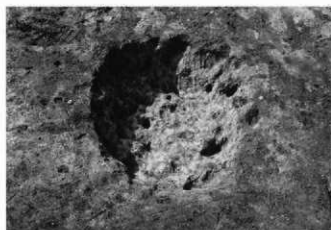
100-8号土坑セクション (南から)



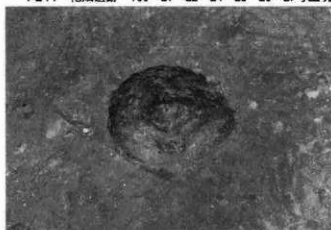
100-9号土坑全景 (南から)



100-9号土坑セクション (南東から)



100-21号土坑全景 (南から)



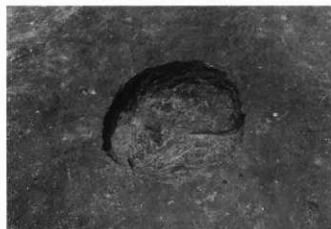
100-24号土坑全景 (南から)



100-22号土坑全景 (南から)



100-22号土坑セクション (南から)



100-25号土坑全景 (南から)



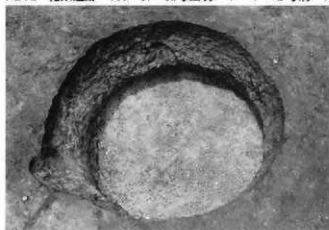
100-25号土坑セクション (南から)



100-26号土坑全景 (南から)



100-26号・27号土坑セクション (西から)



100-31号・32号土坑全景 (南東から)



100-31号・32号土坑セクション (南東から)



1-1・2号溝全景 (南から)



1-1号溝セクション (南から)



100-1号溝セクション (西から)



100-1号溝全景 (東から)



岩陰遺景（東から）



岩陰全景（東から）



1号岩陰調査前（南から）



1号岩陰調査前（南東から）



2号岩陰遠景（南西から）



2号岩陰全景（南東から）



3号岩陰全景（南から）



2号岩陰調査前（南西から）



3号岩陰近接（南東から）



遺跡全景（北から）



遺跡全景（東から）



遺跡全景（西から）



遺物出土状況



遺物出土状況



調査区周辺



遺跡全景（東から）



63-1号畑 (東から)



1号円形遺構 (東から)



1号溝全景 (南東から)



階段及び石垣遺構 (北東から)



1号畑断面



1号畑セクション



基本土層



川原畑三平遺跡試掘調査



川原畑二社平遺跡岩陰1号・2号トレンチ



川原畑二社平遺跡岩陰2号トレンチ東壁



川原畑二社平遺跡中段1号トレンチ北壁



二社平遺跡中段試掘調査



上原 I 遺跡通入路東壁陥し穴



林の御塚陥し穴断面



上原 I 遺跡調査風景

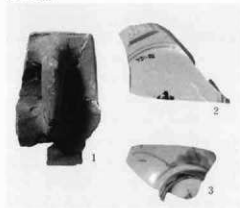


下田遺跡周辺

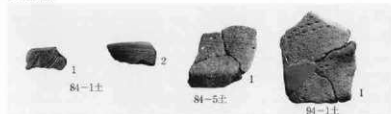


下田遺跡試掘調査

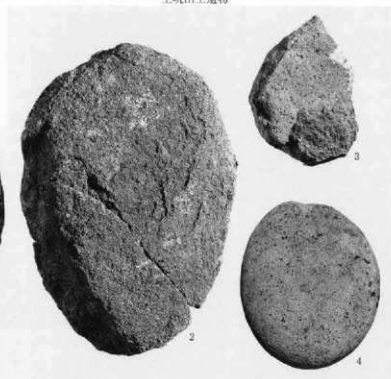
東宮遺跡



石畑遺跡



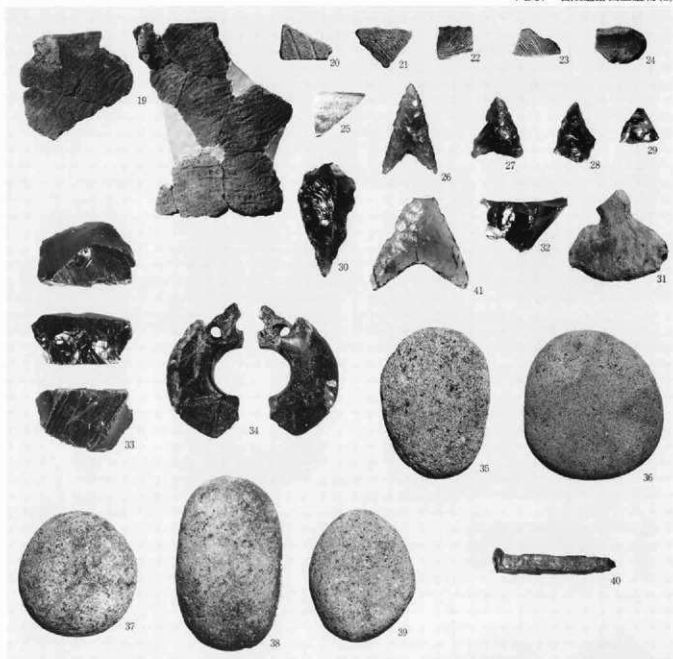
土坑出土遺物



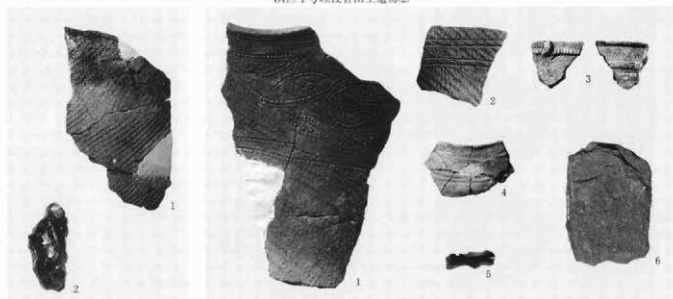
岩除出土遺物



84区1号埋没谷出土遺物(1)



84区1号埋没谷出土遺物(2)



94区2号埋没谷出土遺物

遺構外出土遺物

川原湯勝沼遺跡



63-1土
63区土坑出土遺物



63-2土

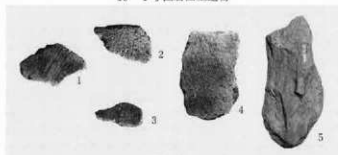


63区造構外出土遺物

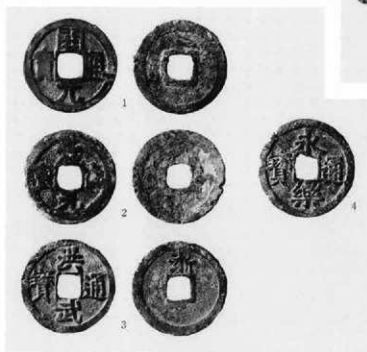
横壁勝沼遺跡



16-1号住居出土遺物



6-1号土坑出土遺物



6-2号土坑出土遺物



造構外出土遺物(1)

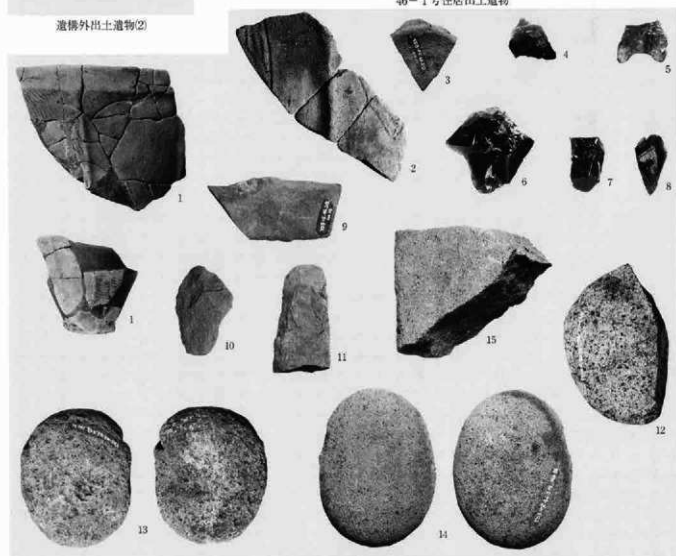
西久保I遺跡



遺構外出土遺物(2)



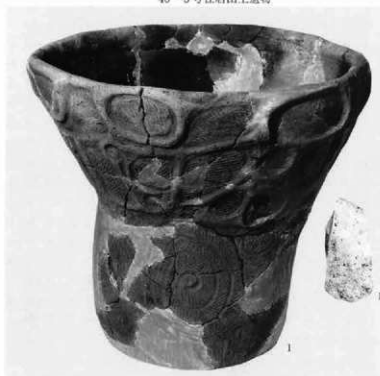
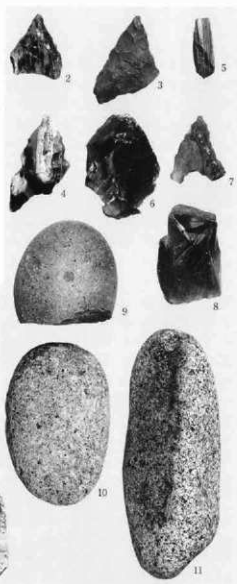
46-1号住居出土遺物



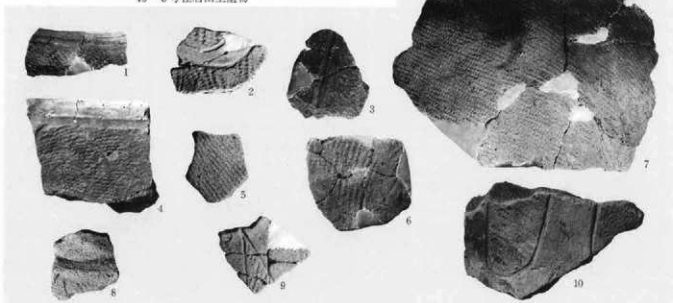
46-2号住居出土遺物



46-3号住居出土遺物



46-5号住居出土遺物



46-6号住居出土遺物(1)



46-6号住居出土遺物(2)



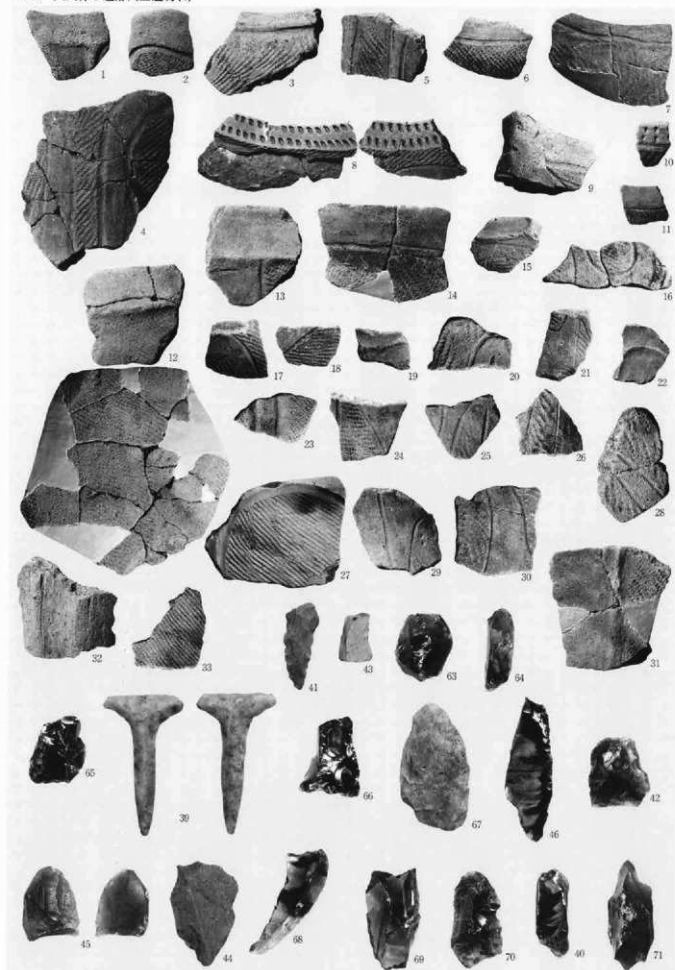
36・46・47区土坑出土遺物



46-2号溝出土遺物



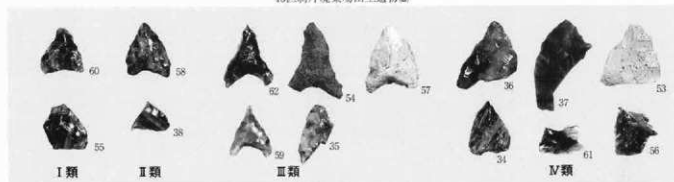
47区水埴遺構出土遺物



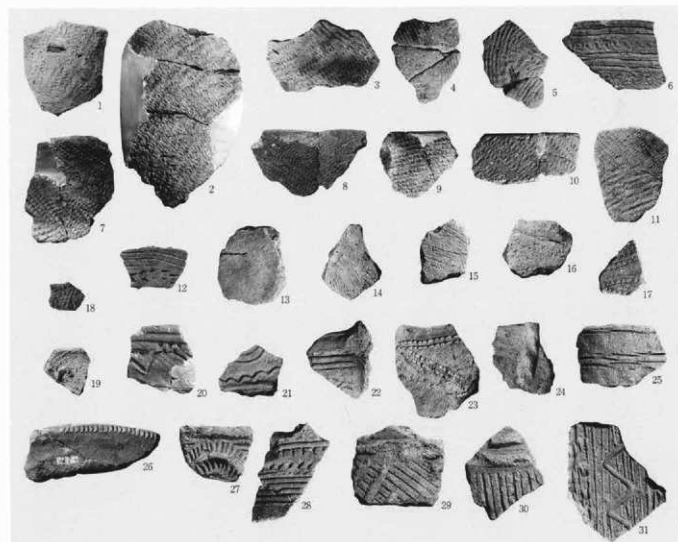
46区割片瓦窯場出土遺物(1)



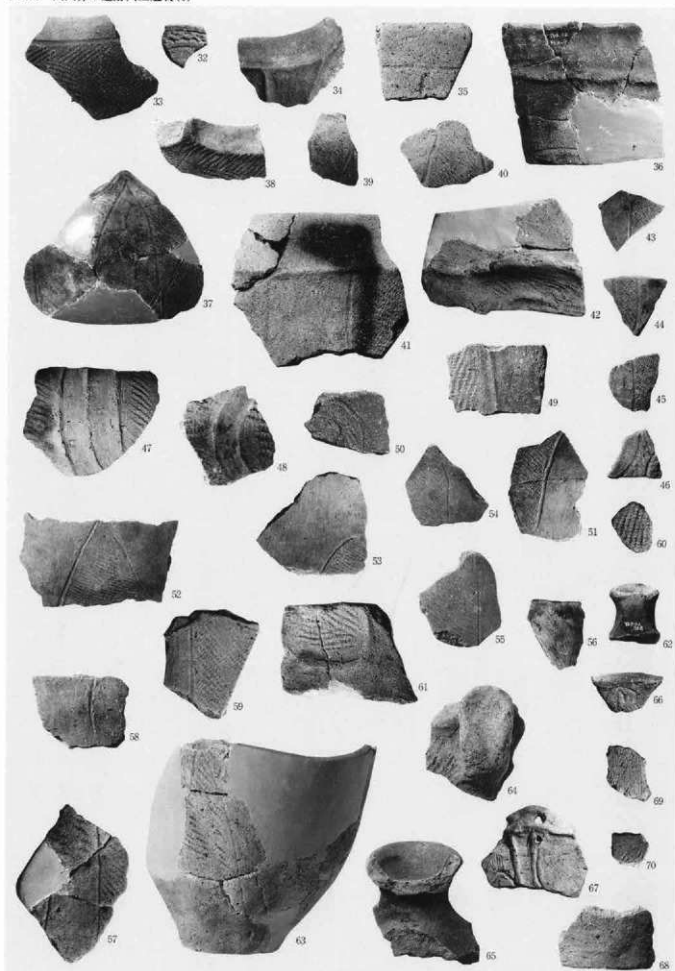
46区剥片廃棄場出土遺物(2)

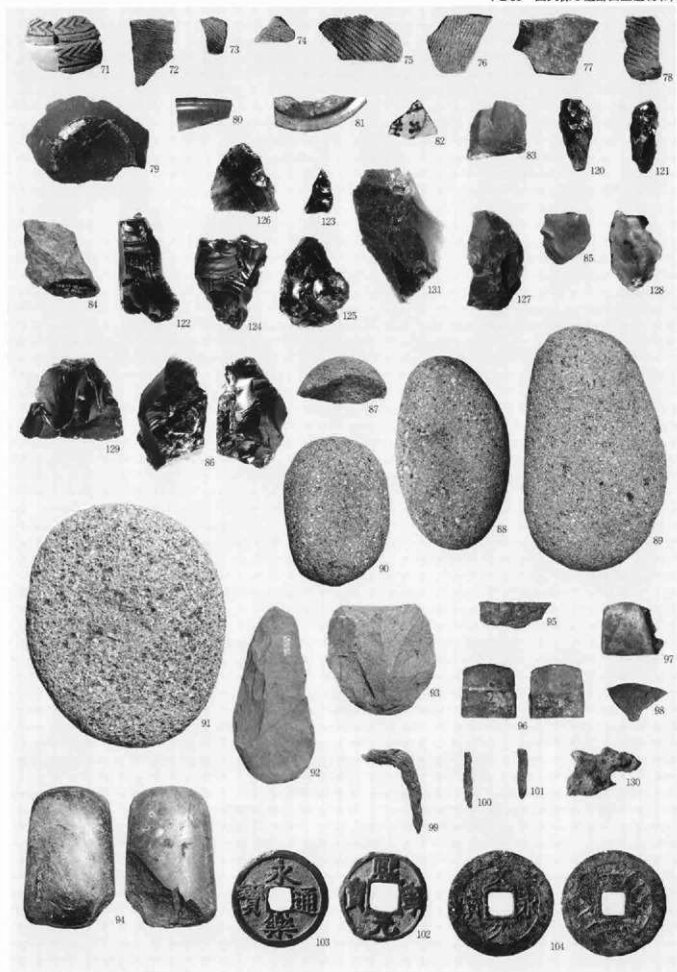


剥片廃棄場出土石礫



遺構外出土遺物(1)

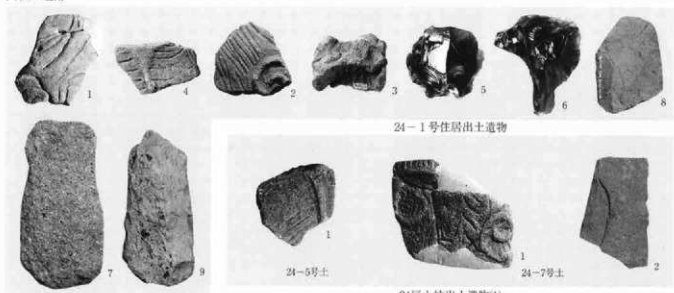






遺構外出土石器

山根 II 遺跡



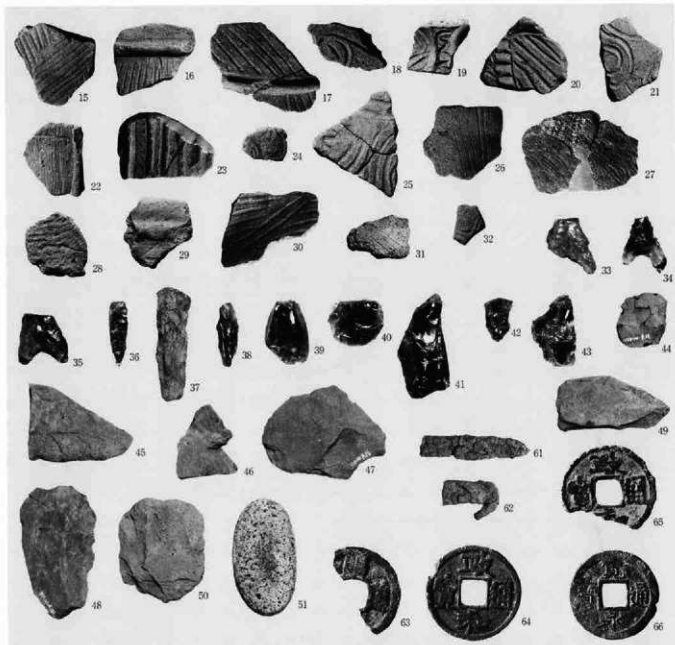
24区土坑出土遺物(1)



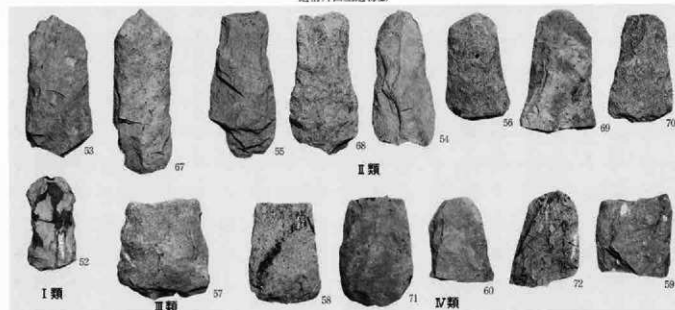
24区土坑出土遺物(2)



遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物②



遺構外出土打製石斧

PL 92 下田遺跡出土遺物(1)

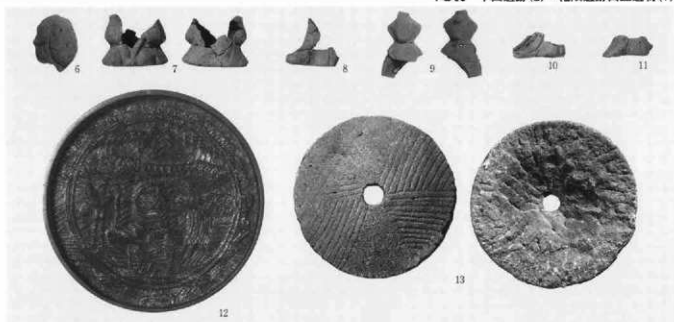
下田遺跡



44-1号住居出土遺物



45-2号塚出土遺物(1)

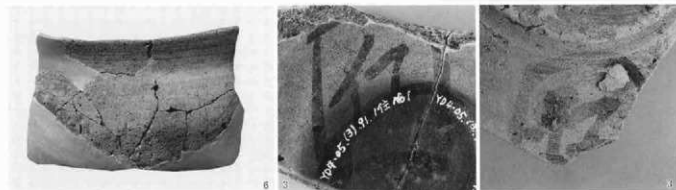
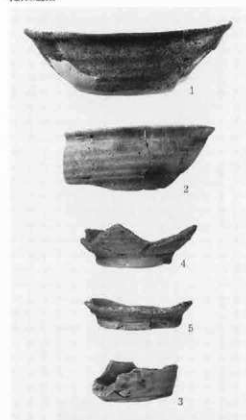


45-2号畑出土遺物(2)



遺構外出土遺物

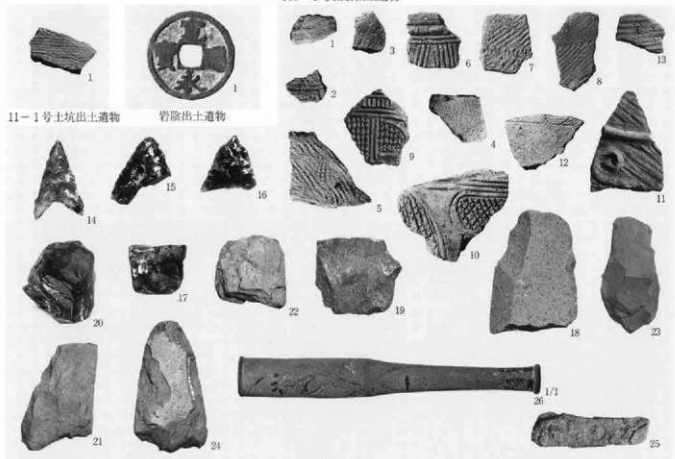
花畑遺跡



91-1号住居出土遺物



100-1号住居出土遺物



11-1号土坑出土遺物

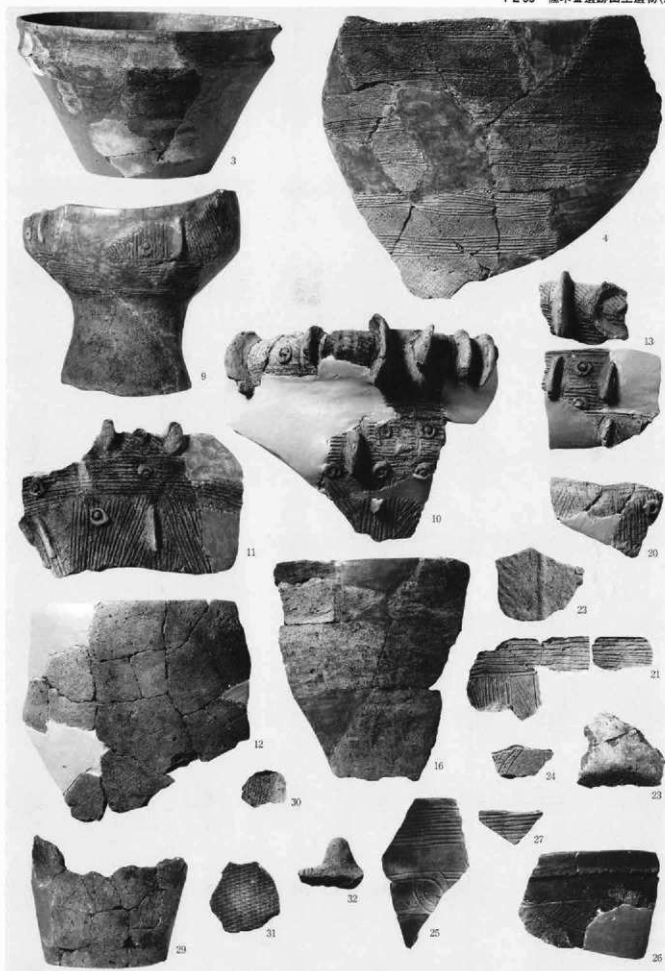
岩除出土遺物

遺構外出土遺物

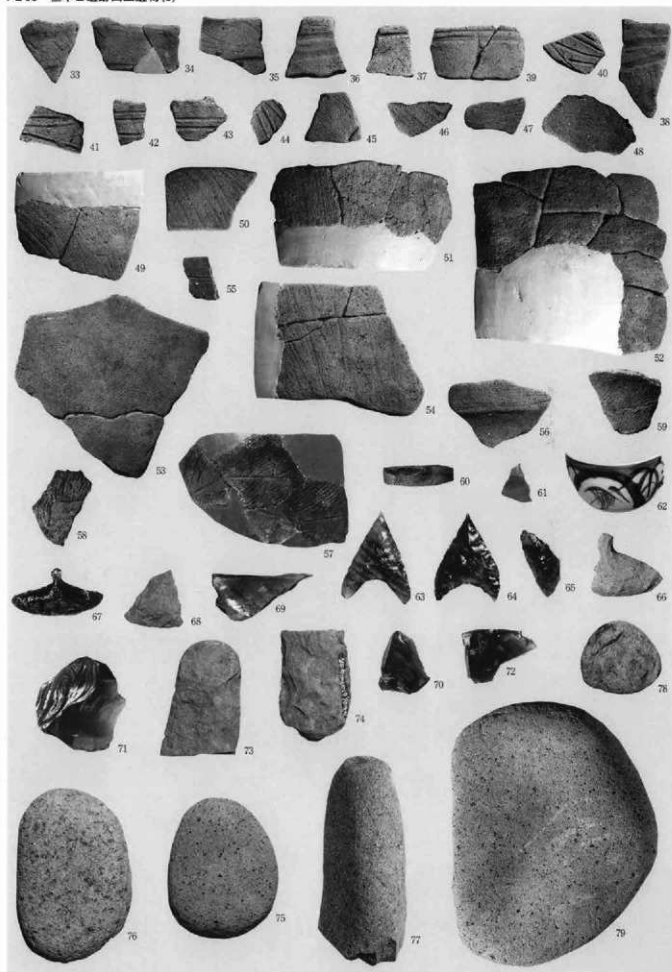
楡木Ⅲ遺跡



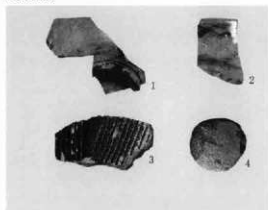
遺構外出土遺物(縄文1)



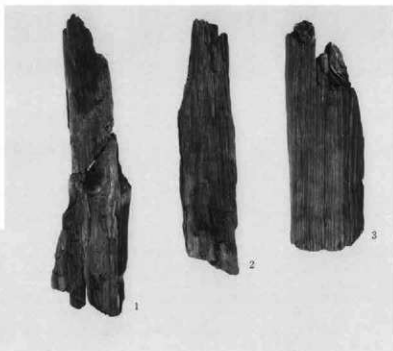
遺構外出土遺物 (縄文2)



尾坂遺跡

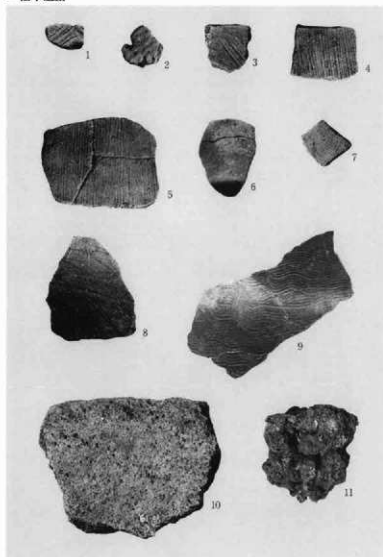


1号畑・1号溝出土遺物



遺構外出土遺物

二社平遺跡



遺構外出土遺物

三平I遺跡



遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ヤンバダムハックツチヨウサシユウセイイチ
書名	ハツ場ダム発掘調査集成(1)
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第2集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第303集
編集者名	松原孝志
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279(52)2511
発行年月日	西暦2002年12月25日

以下に表記されている北緯と東経は2002.4改正以前の日本測地系を基準

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
東宮	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字東宮地内	10424	10005-00124	36°32'56"	138°42'17"	19951204～19951222、19970818～19970829	425	工事用進入路建設(川原畑進入路)・町道付け替え
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東宮	畑跡	近世	畑跡2枚	彼佐見系(18C中～後期)				

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
石畑	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字石畑地内	10424	10005-00551	36°33'10"	138°42'44"	19960516～19960523、19970523～19970528、19980901～19981009	586	工事用進入路建設(ハツ場沢1)進入路)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
石畑	畑跡 敷布地	縄文・弥生・古墳・平安・近世	畑跡2枚・土坑8基・岩除3基・埋没谷4	諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式・畑之内2式・加曾利B2式・弥生中期中葉・古式土師・珠状耳飾り・灰釉陶器・石器		埋没谷が良好な包含層。中心となるのは縄文前期後半		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
川原湯勝沼	群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯勝沼地内	10424	10005-00631	36°32'29"	138°41'27"	19971201～ 19971226	385	仮設道路建設・上湯原橋橋台建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川原湯勝沼	畑跡 散布地	縄文・近世	畑跡 3 枚・土坑 2 基	縄文前期末葉～中期初頭・加曽利 B 2 式		畝の断面に As-A 降下後の農作業の様子が見られる。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
横壁勝沼	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁勝沼地内	10424	10005-00416	36°32'12"	138°40'36"	19941101～ 19950331、 19950524～ 19950731	1,877	工事用進入路建設（東・中村進入路）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
横壁勝沼	集落跡？ 散布地	縄文・平安 ・弥生？ 中近世	住居跡 1 軒・土坑 9 基・溝 1 条	勝坂 1 式・堀之内 2 式・加曽利 E 3 式・弥生？・石器・キセル、銭貨		土坑のうち 3 基が土坑墓。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
西久保 I	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁勝沼西久保地内	10424	10005-00404	36°32'20"	138°39'55"	19940516～ 19940520、 19980401～ 19980619、 20000601～ 20001017	3,320	工事用進入路建設（小倉進路）・代替地擁壁建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西久保 I	集落跡 散布地	縄文・弥生 ・平安・中 近世	住居跡 6 軒・礎石建物 1 軒・土坑 101 基・ピット 5 基・溝 4 条・水場遺構水場土坑 2 基・剥片廃棄場	神ノ木式・花積下層式・黒浜式・十三菩提式・大木 6 式・踏磯 8 式・五瀬ヶ台 II 式・阿玉台 II 式・勝坂式・勝坂 1 式・勝坂 3 式・加曽利 E 2 式・加曽利 E 3 式・加曽利 E 4 式・曾利 II 式・曾利 III 式・堀之内 1 式・堀之内 2 式・縄文晩期末（水式）・弥生中期・弥生岩櫃山式・弥生樽式・須恵器・中世陶器瀬戸美濃と龍泉窯系・石器・銭貨・小刀		住居及び剥片廃棄場は、洪水層直下より検出。46区の洪水層下の土器は加曽利 E 4 式が中心でそれ以降の遺物の混入は見られない。47区は縄文中期中葉が中心。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
山根目	群馬県吾妻郡長野原町大字横巻字観音堂地内	10424	10005-00554	36°32'15"	138°40'06"	19980413～19980806	2,032	町道拡張・深沢橋橋台建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山根目	集落跡？ 散布地	縄文・弥生・近世	住居跡1軒・土坑17基	講磯c式・加曾利E2式・加曾利E3式・加曾利E4式・曾利II式・曾利III式・曾利IV式・加曾利B1式・加曾利B3式・弥生・石器・銭貨・小刀		縄文中期後半曾利式が中心。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
下田	群馬県吾妻郡長野原町大字林字下原地内	10424	10005-00423	36°32'20"	138°40'42"	19951120～19951222	228	工事用進入路建設（中原進入路）
		10424	10005-00415	36°32'17"	138°40'50"	19941003～19941014、19971119～19911219	(武担調査)	工事用進入路建設（下田進入路）・建設省コア倉庫建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下田	集落跡 畑跡 散布地	近世 (縄文?)	住居跡1軒・畑跡	陶磁器・土人形・石器類・銅鏡・銭貨・金属(17～18C.)		畑跡に登壇らしき痕跡あり。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
花畑	群馬県吾妻郡長野原町大字林字花畑・字上原地内	10424	10005-00550	36°32'40"	138°40'59"	19970904、19980513～19980519、19980928～19981102、19990610～19991224、20000401～20000630	9,345	工事用進入路建設・学校用地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
花畑	集落跡？ 散布地	縄文・平安	住居跡3軒・土坑4基・陥し穴51基・溝3条	縄文早期後半・間山式2・五須ヶ台式・堀之内2式・土師器（北陸、信濃系？有り）・須恵器（墨書含む）・石器・キセル（19C.後半）		陥し穴が遺構の中心。時期は不明。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
榎木目	群馬県吾妻郡長野原町大字林字榎木地内	10424	10005-00553	36°32'28"	138°40'06"	19980611～19980731	1,167	工事用進入路建設（榎木沢進入路）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
榎木目	散布地	縄文・弥生・平安・中世		諸磯b式・諸磯c式・加曾利E4式・堀之内2式・加曾利B式・弥生前期・弥生中期前半・弥生中期後半・磁器（13C.中～後、18C.有り）・石器		縄文土器の中心は諸磯b・c式。弥生土器の中心は前期～中期前半。		

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
尾坂	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂地内	10424	10005-00414	36°32'26"	138°39'26"	19940601、19951025～19951026、19990506～19990531	570	工所用進入路建設(尾坂進入路)・尾坂橋橋台工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
尾坂	畑跡	近世	畑跡1枚	陶器・土製円盤・加工材・銭貨				

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
三平 I	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字三平地内	10424	10005-00648	36°33'10"	138°42'22"	19980604～19980605	(試掘調査)	工所用進入路建設(川原畑進入路)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
三平 I	散布地	縄文		磨石				

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
二社平	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字二社平地内	10424	10005-00649	36°33'09"	138°42'39"	19961224、19980623～19980714	(試掘調査)	工所用進入路建設(穴山沢進入路)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
二社平	散布地	縄文・弥生		縄文前期前半・諸磯c式・加曾利B式・縄文晩期永式・弥生前期・弥生岩櫃山式・弥生後期樽式・石器				

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
フシノ 林の御塚	群馬県吾妻郡長野原町大字林字東原・字上原地内	10424	10005-00633	36°32'30"	138°40'58"	19951218、19981208～19981211	(試掘調査)	工事用進入路建設(林進入路)・現有道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
林の御塚	散布地	縄文?	陥し穴					

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
ウヘノ 上原 I	群馬県吾妻郡長野原町大字林字東原・字上原地内	10424	10005-00634	36°32'30"	138°40'58"	19980206～19980219	(試掘調査)	工事用進入路建設(林進入路)・現有道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上原 I	散布地	縄文時代?	陥し穴					



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第 303 集

ハツ場ダム発掘調査集成 (1)

ハツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集

平成14年12月25日 印刷

平成14年12月25日 発行

編集・発行 / 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibon.org/>

印刷 / 上毛新聞社出版局

37-11-K-6

36-20-H-6

X= 61120



X= 61080

X= 61040

X= 61000

X= 60960

27-91-F-16

28-100-H-16

X= 103040

X= 103000

X= 102960

付圖 Y.D4-05花畑遺跡

